

令和7（2025）年度
学校評価（自己評価）報告書



学校法人三重高等学校

三重高等学校

目 次

自己評価の実施と教育活動の改善に向けた PDCA サイクル

教育理念・方針等

令和7(2025)年度

重点目標

基本方針(分掌)

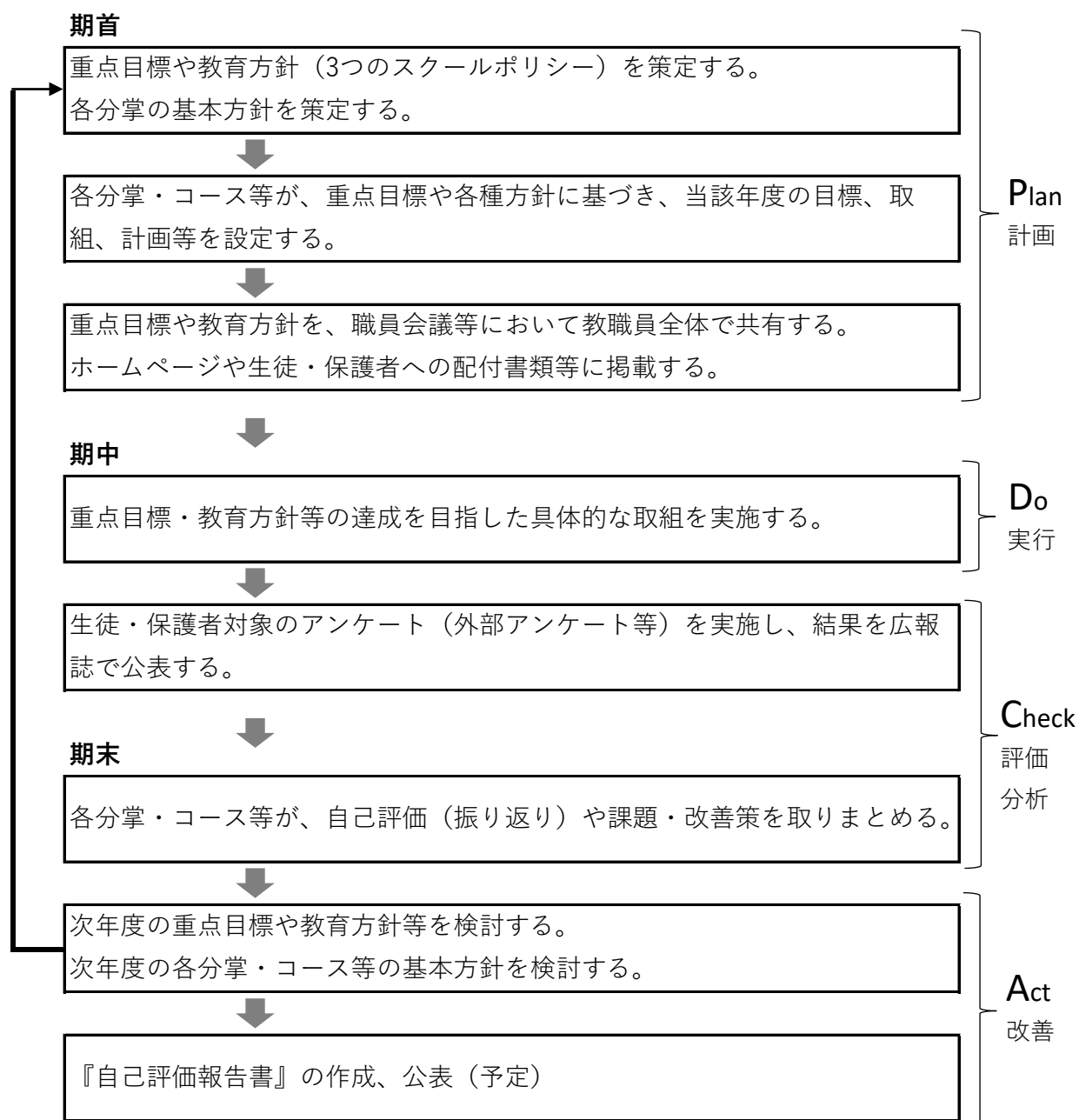
〔別紙〕

教育活動改善ための自己評価シート(分掌)

教育活動改善ための自己評価シート(コース等)

学校評価アンケート集計結果(保護者、生徒、教職員)

自己評価の実施と教育活動の改善に向けたPDCAサイクル



三重高等学校 教育理念・方針等

教育理念（学校法人三重高等学校）

校訓	真 剣 味
建学の精神	学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ 学術の場では、学術の研鑽を図り、スポーツの場では、健康の増強・心技を練成する。実行すべき大綱として、一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる 四、相手に敬意を持つ この四大綱を定める。学校法人三重高等学校は、この建学の精神を教育の基盤とする。 私立学校は「建学の精神」の理念のもとに教育することが根幹であり、人間性を重視しつつ、個性的な教育にあたることを誇りとしています。学校法人三重高等学校の建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」は、熱意をもって学び続けること、心身を鍛えるときともに夢と向上心をもって物事に挑戦することを強調しています。
四大綱	一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる 四、相手に敬意を持つ

スクール・ミッション、教育目標

スクール・ミッション ・学校の存在意義 ・期待されている社会的役割 ・目指すべき学校像	○建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の教育理念のもと、知・体・徳（＝真・剣・味）のバランスのとれた人間形成を目指し、熱意をもって学び続け、心身を鍛えるときとともに、夢と向上心をもって物事に挑戦する生徒を育成する。 ○実行すべき四大綱「ルールを守る」、「ベストを尽くす」、「チームワークをつくる」、「相手に敬意を持つ」を体得し、他者と協働しながら、実社会で活躍できる質実剛健な生徒を育成する。 ○国内外を問わず、広く社会の歴史・文化に関心を持ち、国際社会・地域社会に積極的に関わって社会に貢献ができる生徒を育成する。
学校教育目標 ・育成を目指す資質・能力	○確かな学力の定着と自ら学ぶ意欲を伸ばす教育の充実 ○学問・スポーツ・文化に対して向上心を持って活動し、自らの個性を伸ばして挑戦できる環境づくり ○人権・人格・文化を尊重し、主体的に他者と協働して社会に貢献する意識の醸成

令和7(2025)年度

教育方針（3つのスクール・ポリシー）

グラデュエーション・ポリシー 育成を目指す資質・能力に関する方針	○確かな学力と幅広い教養を身に付け、常に向上心を持って活動できる生徒 ○豊かな社会性と高い規範意識を持ち、人権・人格・文化を尊重できる生徒 ○未知の課題を探究して考察する論理的思考力を持ち、考えをまとめて表現できる生徒 ○他者と協働・協調し、グローバルな視点をもって社会をより良くするために実践行動できる生徒
カリキュラム・ポリシー 教育課程の編成及び実施に関する方針	○生徒一人ひとりの学習や進路目標の実現に応えるように学力を高めるとともに、豊かな人間性や社会性の涵養、自立した学習者となる教育課程を実施 ○人権感覚や自己肯定感を涵養するとともに、四大綱を体得できる特別活動を実施 ○グローバルな視点を育成し、持続的な社会の実現に貢献する探究的な学びを実施
アドミッション・ポリシー 入学者の受入れに関する方針	○自分の個性を伸ばして進路実現を図り、自己の学びや研究を社会の発展に活かしたい生徒 ○学習や部活動、生徒会活動、学校行事に積極的に取り組み、多様な仲間と協働的に活動をして自分を成長させたい生徒 ○学校での活動を通して、自分で考え、判断する力を磨き、国際社会・地域社会に貢献をしたい生徒

令和7(2025)年度

重点目標

○ 生きる力を育む教育の一層の充実

- ・ 探究学習やICTを活用した主体的な学びや学習習慣の確立【確かな学力】
- ・ 自己指導能力を高める生徒指導の工夫・改善【豊かな人間性】
- ・ 心身ともに健康を維持増進するための習慣の形成【健康・体力】

○ 人権感覚あふれる学校づくりの推進

- ・ 人権尊重の理念を基盤とした種々の教育活動の展開

○ 教職員がより働きやすい環境の整備(生徒と向き合う時間、自己研鑽のための時間の確保)

- ・ 業務の見える化・効率化、引き継ぎ体制の構築（業務の整理・精査、業務マニュアルの整備等）
- ・ 現場の課題・問題点を教職員から汲み取る機会の設定

○ 校務や教育の更なるデジタル化の推進

- ・ 「情報センター（仮称）」の設置に向けた検討、実施
- ・ 学校と保護者とのやり取りのデジタル化の検討

○ 不登校の生徒等の居場所づくりや学習支援体制の構築

○ 危機管理についての体制・整備の充実

- ・ 震災への対応等、危機管理意識の向上、施設整備の充実

○ 学校広報の充実

- ・ 三年制ホームページの刷新に向けた検討
- ・ SNSを活用した情報発信の組織体制の整備

○ 法令に即した学校評価の体制づくり

- ・ 「学校評価報告書」の策定、公表（令和8年春～夏頃を目途に）

令和7(2025)年度

基本方針(分掌)

(1)学習指導等 教務部	・授業時間に対する教員の意識を徹底する。（チャイムと同時に授業を開始する） ・生徒が主体的・能動的に取り組む授業づくりをする。 ・公開研究授業のより良い在り方を検討し、実施する。 ・iPadを適切・有効に活用するよう授業改善に積極的に取り組む。
(2)生活指導等 生徒指導部	・生徒が校則を遵守し、安心・安全かつ充実した学校生活を送ることができるよう、服装・頭髪指導、礼儀・作法指導等、きめ細かな指導を行う。 ・交通ルールの遵守、列車・バス車内の乗車マナーの育成、自転車通学路の順守等交通安全指導を徹底する。（Weekly交通安全指導、一斉登下校指導の全教員の参加） ・クラス担任と協力して始業5分前指導を継続して行い、遅刻者数各クラスゼロを目指す。 ・自転車での登下校時のヘルメット着用率を高める。 ・学期に一度の学校生活アンケートや担任による個人面談の実施、クラスやクラブにおける仲間づくり等を通し、いじめの未然防止、早期発見に努める。（年間を通して「いじめ防止週間」を設ける）
(3)探究教育 探究推進部	・生徒が自ら課題や問いを設定し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。 ・策定したカリキュラムを実施し、改善・充実を図る。 ・地域との連携を図り、外部の教育力を活用する。 ・DXを活用した探究を推進する。（アスリートクラスは、DXを活用したスポーツ探究を実施する）
(4)国際教育 国際教育部	・ACGS・BGGS（姉妹校）との交換留学を推進する。 ・成都外国語学校（姉妹校）との姉妹校提携の活用を推進する。 ・韓国での語学研修（英語学習）の充実を図り、実施する。 ・英語セミナーの実施と充実を図る。（ナビスアスリートクラスの参加推進、英語力の向上を図るプログラムの検討） ・国際交流を推進する。
(5)進路指導等 進路指導部	・中京大学進学へのプログラムを再構築し、特別推薦入試利用を推進する。 ・国公立大学への現役合格者数の増加を目指す。また、医学部医学科を含めた難関大への合格者数の増加を目指す。 ・キャリア教育を推進する。（進路講演会、キャリアデザイン講座、出前授業） ・模試（スタディサポートを含む）を活用した進路指導の体制を推進する。（データ分析に基づく指導の振り返りと対応策、面談による指導の手厚さの推進）
(6)部活動・生徒会活動等 特活部	・生徒会活動への生徒の参加意識を促進し、生徒会行事に限らず学校行事が生徒主体で進められるように支援する。 ・全国高校総体、全国高総文祭等全国大会に出場するクラブ数の増を目指す。 ・部活動やその他の個人活動の成果を学校全体で共有し、讃える取組を推進する。

(7)生徒募集等**入試広報部**

- ・新コースについての周知徹底を行う。（各中学校・塾）
- ・募集定員確保に向けた取り組みを強化する。（生徒減の中確実に確保できる対策）
- ・オープンスクールのプログラム内容や時間設定等を再検討する。（受験者層やその保護者にとってより有益な内容の検討、生徒会の運営への参加も検討）
- ・三年制ホームページの改修を検討し、生徒募集の充実を図る。
- ・より質の高い意欲に燃えた生徒を、より多く集める。

**(8)保健・
人権等****保健環境部**

- ・日常の教育活動、人権LHRを通して、互いを思いやり理解しあえる学級集団づくり等、人権教育を推進する。
- ・基本的生活習慣の確立、心身ともに健康を維持増進するための習慣形成と体力づくりのため、積極的な保健指導を実施する。
- ・自らの健康管理等について、生徒への啓発活動を随時実施する。（コロナ・インフル等の感染症対策）
- ・教育支援体制の見直しを検討する。

**(9)総務・
庶務等****総務部**

- ・入試広報部や各コースと連携し、オープンスクールの見直しを行う。（会場、内容、時間設定等）
- ・保護者目線のPTA総会の開催方法を再検討する。
- ・入学式・卒業式等、各行事の円滑な運営、校内外と連携を密にしながら業務の明確化と効率化を図る。
- ・入学試験・合格者説明会について、校内外と連携を密にしながら業務の明確化と効率化を図る。

教育活動改善のための自己評価シート（コース等）

・NAVIS コース 進学・アスリート

・STELLA コース 特進・選抜

・STELLA コース 特進

・進学コース 進学・アスリート

・六年制高校部

コース等	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	区分	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
NAVIS コース 進学 アスリート	①学習	日々の学習習慣の定着。 基礎学力(高校卒業程度)の定着を目指す。 到達度テスト(スタディサプリ)を利用した日々の学習の振り返りに取り組む習慣をつける。 特に例年、苦手意識を持つ教科(数学等)への取り組みを意識的に行う。 教員間での各教科の学習到達目標の共有する	小テスト(単語テスト)の実施。なるべく小さな範囲の中からテストを行うことによるスモールステップの設定と成功体験の積み重ねをはかる。 土曜出校日についても50分という枠組みを撤廃し、単位(テーマ)別で講習会等を行うことで参加しやすさを重視。 到達度テスト後に各生徒に対して課題配信を行い、小さな範囲で課題や講義に取り組むようにする。 DXを意識し、ICT機器を活用することで取り組みやすい授業に努める。		学習習慣の定着をと考えていたが、なかなか定着まではいかなかったように感じる。単語テスト等への取り組みは悪くなかったが、到達度テストの結果から鑑みても上達しているとは言い切れない。また、授業についても積極的にグループワークが出来なかったりと課題は多い。良かった部分としてはスタディサプリの利用状況は他の学年に比べても多い点がある。	スタディサプリをどう活用するかという部分を考えていく必要があると思う。一人一人課題が違うので非常に有効なコンテンツであるのは間違いない。そこを授業の中で取り入れたり、テスト範囲に取り入れることで日頃から学びに向かう習慣を身に付けれるようなそんな取り組みにしたい。またNAVISコースに来る生徒は総じて自己表現能力が色々な面で弱いと感じるので、授業においても発表やプレゼンの時間を作るなど工夫したい。	
	②生活	生徒への関わりを深く持ち、きめ細やかな指導を行う。 生徒に対してネガティブな感情で関わるのではなく、建設的な関わり方を心がける。 特に制服の着こなしについてはルールを共有し指導にあたる。 教員－生徒間の関係性を正しく持つ	日直日誌等での生徒とのかかわりを重視し、何気ない日常での会話の実施、共有を行う。 学校行事の増加、月に1回学校行事(合同HR等)を行い、クラブ活動での成果の共有や、身だしなみについて等良いことも悪いことについても学年で共有する。 頭髮服装指導等についても、クラス間で格差が発生しないように学年団でのコミュニケーションを重視(勝手に判断しないようにする)する。		この部分がNAVISコースが抱えるもっと大きな問題であると確信した。遅刻や頭髮服装の面についても各HRで複数回注意してもらったにもかかわらず数値的には悪化しているのが現状である。	大きく考えて課題は以下のとおりである。①遅刻②頭髮服装指導③SNS等を含む人間関係のトラブル。これらの問題に対してどのように取り組むのが課題であり、明確な改善策が見込んでいるわけではない。担任含め学年団はもちろん、授業担当の先生をも巻き込んで子どもに関わっていくのが改善策の一つである。	
	③探究活動	「地域に根付いた存在」(ハブのような存在)という目標のもとに自分たちなりにどう社会と関わるかを考える。 探究の方法を学ぶことで、他者を尊重する考え方や自分の興味関心がある事柄が地域の活性化につながるのかを探し、2年生以降の探究につなげる。 土曜日の取り組みである土曜講座とも連動させながら様々なことにチャレンジさせ。	前半期では探究のやり方、進め方や取り組み方を軸に活動を進める。 基本的には毎回全員(ベルホール)で探究活動を行う。 教材についてはマイナビのLOCUSという教材をもとに作成したものを利用して授業を進める。 後半期では生徒と共にテーマ設定を行いながら進める。徐々に個々の独自性の部分をつくりながら進める。 2年生以降のオリジナルな発想で取り組めるような準備期間とする。		地域の魅力探し→地域の課題探し→実際にフィールドワークで感じる。という部分までを2学期までの中で完了した。概ね想定していた通りの部分は完了できたように思う。ただ、どうしても子どもたちの中でも「独創的」な発想やアイデアが生まれてくるわけではなく心配な部分は多いのも事実である。	今後2年生にかけて探究が2単位になることから、自身の進路と探究がリンクするように取り組んでいく必要がある。アスリートクラスの探究も含むので、自身のやりたいことと地域に貢献できることがどう関わるのかを重要視したい。そのためにも子どもたち自身が「無理かもしれない」と思うってしまうようなことであっても、やってみようと声掛けをしながら探究を進めていきたいと思う。また、外部との関りについても積極的に行い、色々な発想を考えたい。	
	④進路	中京大学推薦合格 合型選抜における国公立大学への受験、合格を目指す。 私立大学を総合型選抜、学校推薦型選抜での合格を目指す。(探究活動を通しての進路学習を生かす) 希望者の合格率向上(特に公務員)を目指す。	総 統 一 テ ス ト に 向 け た 英 数 国 の 3 教 科 に 対 す る 学 習 の 意 識 付 け を 小 テ ス ト や 合 同 H R 等 を 通 し て 行 う。 日 々 の 小 テ ス ト の 回 数 を 増 や し (範 囲 は 縮 小) 授 業 の 5 0 分 で 完 結 す る よ う な 授 業 の 展 開 を 理 想 と す る。 検 定 試 験 を 利 用 し た 受 験 方 式 の 増 加 を 考 え 、 検 定 試 験 を 重 視 す る。 日 頃 か ら 検 定 試 験 (特 に 英 語 検 定) へ の 意 識 を 持 た せ 、 土 曜 日 等 を 利 用 し 学 び を 推 奨 す る。 探 究 と 連 動 さ せ て 進 路 に つ い て も 考 え る 土 台 作 り の 学 年 と す る		マイナビやリクルート等の講演会を通して文系理系の分類というよりは、より未来に即した形で進路選択が出来るようにした。	NAVISコースはまだ1学年しかない事からも今後に大いに課題がある。	
	⑤特別活動	クラブ活動の充実及び、及び活動時間を確保する 実績を利用した国公立大学や上位私立大学進学の意識付けを行う 学業とクラブ活動の両立のサポート	昨年度から開始された7限授業との兼ね合い、顧問との連携を密にとる。クラブ生の中の成績上位者・下位者それぞれへのフォロー		多くのクラブが全国大会に出場し、アスリートクラスについては成績も向上しており一定の成果を上げたものと感じている。	強化クラブ生を中心に、よく努力はしているもののクラブ生の中の成績下位層に対してどのようなフォローが出来るのかを考えないといけない。土曜日はクラブがあるのでそれ以外の部分で何とか時間の確保をしたい。また、クラブの時間等の問題含め考えていく必要がある。(選抜は月火木7限 進学は月火7限)	
	⑥その他（コース独自で設定する場合は、ここに記入してください）	教員間で「探究活動」や「土曜日」の使い方を共有。 進学する際の方法として探究活動を利用し、総合型選抜を中心とした受験を利用するという方向性を共有。土曜日への参加について,意識の共有。	コース会議等を利用し,積極的なコミュニケーションをとれるようにする		特に土曜講座については上手くいかなかった部分と成功した部分の両面を感じている。色々な講座を用意したものの、参加人数が少なくどのように開催するのかを含めて再検討が必要である。	土曜講座については開催に関する要件を細かく決める必要があるように感じた。具体的にはクラブ生の参加が可能かどうかについての約束事をはっきり決める必要がある。また同時に、「出たい」と思わせるような講座の開講についても考えていく必要がある。	

コース等	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	区分	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
STELLA コース 特進 選抜	①学習	基本的な学習習慣の定着	学校生活の確立と授業重視…生活のルーティン、予習・復習と授業のサイクル、態度と姿勢の徹底 学習時間の確保…学習と部活動との割合の設定、自学の促進、スタディサプリの活用		到達度テスト、活用度テスト(2年)、模試について事前・事後課題の配信 長中短期休暇について課題の配信 定期試験の事前事後学習の取り組み	スタサブ、Classiともに、単元別課題の配信による授業理解の補強 学年だけでなく、教科担当者による課題配信の促進 部活動の時間過多、学習時間の確保	
	②生活	基本的な生活習慣の定着	学校生活の振り返り、学習計画の設計…「Classi」・「NOLTYスコラ手帳」の活用		定期テスト週間のClassi「学習記録」への記入	スコラ手帳の活用促進	
	③探究活動	自分の能力・適性と将来像から進路思考	将来へのロードマップづくり…自分を知る、社会・職業を知る、将来を考える、進路を考える キャリア形成…自己分析、文理選択、進路研究、進路講演会など 総合的な探究の時間…興味研究、課題発見・設定能力とプレゼン・発信力の育成		1年生は市内フィールドワークを実施 2年生は「サマーインターンシップ」、リクルート「高校生Ring」に参加 年間計画活用シートの改善…成果発表会の開催、学年間の相互支援・相互成長	インターンシップについて、選抜クラスからの参加者は5名(68名中) 年間計画活用シートの改善…学校行事と探究活動とのスケジュールリング	
	④進路	進路実現に対応できる学力養成	授業改善と一括指導の見直し…「意欲と集中力」を向上させる授業、ICT・スタディサプリの活用 多様化する入試への対応…部活動と連携した指導、ポートフォリオへの履歴の蓄積など 英語4技能の育成…CEFR/A2～B1レベルの取得(英検準2級～2級)		土曜学習会の活用…補習、英検講座、自学など 英検の積極的な受検 年間計画活用シートの改善…マイナビ「志望理由書講座」の取り組み(2・3年)	土曜学習会と部活動の兼ね合い	
	⑤特別活動	自分と人との連帯感の醸成	学年・クラスの雰囲気づくり…学校行事への参加、協働体制の構築など 多様化する生徒への対応…個の特性に応じた指導、情報共有など 人権意識の浸透…他者の存在の承認、日常生活の中の人権尊重		部活動、翠巒祭(体育祭、学園祭)など学校行事等への積極的な参加 クラスにおけるチームワークづくり	学校評価アンケートについて、部活動、クラス、学校行事に対する高評価	
	⑥その他（コース独自で設定する場合は、ここに記入してください）	学校生活、キャリア形成、探究活動を体系化し、生徒の能力向上をはかる。 指導にあたっての基本的な考え方を、教員間で意志統一する。	「年間活動計画シート」の策定と実施、改善 「キャリア・ルーティン」の実践 「キャリア・ステューデント」の策定と実践		平素から生徒に関心をもち、踏み込んで関わっていく、日頃から小さな変化を注視し継続して見守っていく姿勢の浸透、起こり得る問題に早期から対応	3年生の年内入試後の学習継続と支援	

コース等	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	区分	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
STELLA コース 特進	①学習	どの生徒にも学力の上乗せをすることを念頭に、全体としては一般選抜受験を目標とする。 1,2年生は日頃から国語・数学・英語の下位層を持ち上げて落ちこぼれをできる限り作らない努力をする。生徒の所為にはしない。3年生は全員で大学入学共通テストおよび一般選抜に向けて取り組みながら、改めて各生徒の進路をできるかぎり掘り下げさせると同時にしっかりと固めながら進路先に応じた取り組みを適切にアドバイスする。	教科書を第一とした日頃の授業を大切にし、ノート・傍用問題集を最大限活用する。各教科・科目で予習・復習の仕方から適切なそれらへの取り組みの要求や適量の宿題により学力の向上を図る。 模擬試験や統一テストを実力テストと位置付け、定期試験とともに適切に学力を評価し面談から課題を探し改善を図る。定期試験や模擬試験では順位・平均点による相対評価ではなく学力の推移を重視し、本人の取り組み状況や達成度および志望との距離感を双方で掴み以降に反映する。他コース・非常勤の担当者と日頃からコミュニケーションを取り、方向性や取り組みに対して協力が得られる体制を整える。		1年生は下位層への対応を丁寧に、2年生は英数を中心としてこちらも取りこぼしが無いように、3年生は受験に向けて全成績層に対して特進が目標とする学習への指導ができていた。しかし、どの学年も下位層が中位層に追いつくことは非常に難しく、意識や学習習慣の面でも顕著な進歩はまだ現れていない。また、上位層についても突出した生徒を生み出すことが難しかった。	教員・生徒・保護者ともに特進内での位置付けに捕らわれない成績評価や意識の持ち方が今後のカギを握っている。合わせて、入学時の成績に対して学力の上乗せをすることを目標にした取り組みが必要である。小中で習ったことの基本的な理解や習得があまりできていないようなので、分かり切ったことと捉えがちな事でも改めて説明のし直しが必要と思われる。教員側が現状に対して前向きな姿勢で臨むとともに、どんな進路先を与えるかではなくどのように生徒を成長させるかに重点を置く必要がある。	
	②生活	基本的生活習慣とコミュニケーション能力を養う。 特進コース・特進クラスに相応しい行動ができる集団を目指す。 生徒間・生徒教員間において良好な人間関係を旨とした前向きかつ落ち着いた集団・雰囲気作りを心掛ける。 責任を全うすることや自己管理を徹底し、また日頃のコミュニケーションにより問題行動を回避したい。	対面のコミュニケーションを重視し、SHRやHRおよび行事の活性化を図る。HRの内容は横並びである必要はなく、担任それぞれが時期に応じてすべきことまた生徒が元気になることや教養的内容を考える。翠巒祭のクラス企画でもより学術的なものや創作的なものを目指す。 手帳を活用し連絡事項や自己の行動をしっかりと記録させ、生活全般について自己の考えや行動に対する自認を促す。 清掃の徹底とともに日直を中心とした役割分担に責任を持つことを要求する。日直日誌を最後の行まで書くことで記録に残すことや報告すること、またその他の機会もできる限り活用し書く習慣も身に付ける。		担任の努力により各学年ともに結束力・集団力は高く、生活面における生徒間での共通認識を保つことができた。生徒・保護者も担任に信頼を寄せていると感じる。 一方的になりがちな欠席時のこちらからの確認をはじめとして適切に保護者と連絡を取っていることも良好な雰囲気の一因となっているのではないか。生徒の自己管理能力はまだまであるが、指導を続けることで今後の成長に期待したい。	手帳を活用していない生徒も一定数おり指導が必要と考えられる、自身についての認知は向上の第一歩である。行事については以前ほど時間を費やさない傾向にあるが、行動力や実行力および興味関心を養う貴重な機会として最大限に活用していきたい。学校・家庭における充実した生活が全ての基盤であり、調査をすると生活習慣と成績との明らかな相関が見られることから、様々な行動を習慣化していくことが今後も非常に大切である。	
	③探究活動	探究活動を通して物事を学問的に追究しようとする姿勢を身に付け、興味関心や学習への意欲を醸成する。	生徒には3年間の時間の流れを意識させ、教員が十分に探究の内容を理解した上で授業を展開する。将来にわたる学びに繋がることを念頭に置き、進学意欲をより高められるよう意図する。		各学年ともに担任がテーマに沿って毎回入念な準備をするとともに、生徒が取り組みやすい雰囲気も作ることができた。1年の探究フィールドワークは初めての試みであったが、教員の早くからの企画および手配により満足のいく結果を得ることができた。サマーインターンシッププログラムにも多数の生徒が参加した。	何事も最初は一生懸命考え開拓することから思い入れもあり指導に如実に反映されるが、年度毎に形骸化していかないか大変心配である。今後の探究フィールドワークが単に毎年同じことをするのではなく、今年度と同じように担任団が悩みながら試行錯誤をもって準備し、さらに今回の経験が活用されるものであって欲しい。	
	④進路	進路先を与えるのではなく自ら得ることのできる生徒を育て、国公立大学への進学は学年の半数を目標とし、多くの生徒が一般選抜まで挑戦する受験体制を作る。 進路は様々であっても全員大学入学共通テストを全員で受験するなど、特進としての集団や機会を大切にする。 単に国公立大学というだけでなく東大京大をはじめとする旧帝大以上や医学科も目指せる枠組みとなることを目指す。	面談やHR、探究により2年以上を費やして生徒それぞれの進路を何度も掘り下げさせる。興味ある分野を自ら学んだり調べたりすることを日頃から推奨し、様々な体験やセミナーへの参加も促し多くのことに触れる機会を増やすよう指導する。 模擬試験は実施時期・流れを理解させ面談も実施することで成績を見て終わりにならないようにし、また以降への活用を特に重要とする。 高校における全授業での幅広い学びが将来新しいことを学ぶ際の基礎となることから、教科・科目の偏重を避ける指導により柔軟に進路に対応でき将来にも繋がるようにする。		12月時点では総合型で2名、学校推薦型で6名の国公立合格者となっている。枠組みのおかげで国公立大学を目指す生徒多く、実績を上げるために集団が有効に作用している。3年生は担任団が意欲をもって学級経営をしてきたことから進路について前向きに考える雰囲気となっており、一般選抜でも十分に勝負できる生徒が多数いる。1・2年生も3年生のこれまでの取り組みを参考に後に続いて欲しい。	入学時の成績は年々低下しており、目指す進学を実現するには相当の上乗せが必要であるが、これは全国的な傾向であり、逆に諦めずに取り組めば国公立大学合格のチャンスは十分にある。公立高校に落ちた入学者は自信を無くしているケースが多いが、教員側の前向きな姿勢と粘り強い指導で本来の実力に応じた結果に導けるはずである。世の中が総合型や学校推薦型に向いている今だからこそ一般選抜合格のチャンスは拡大しつつあり、これを逃さない指導が必要である。	
	⑤特別活動	クラブ活動への参加は妨げない。ただし、試合等で欠課となる分は通常の欠席と同じように各自でのフォローを基本とする。 ボランティアや生徒会活動、各種セミナーや体験、大学訪問(オープンキャンパスに限らない)や企業訪問などに対して積極的に行動する集団を目指す。 特別活動の充実が視野を広げるとともに気持ちの充実にも繋がり、進路達成にも良い影響を及ぼすと考える。	クラブへの所属は生徒個々の考え次第であるが、悩んでいる場合は前向きに応援する。習い事についても同様。また、継続は大切とする。学習時間の確保のためにクラブ活動と引き換えるものがあることも指導する。 各種セミナーや体験は適宜案内し積極的に参加を勧める。興味のある進路先や分野について長期休みを利用して開拓し訪問するなどの自発的行動を促す。		3学年合わせてクラブ所属者は63％、運動部36％、文化部27％となっており、予想以上にクラブ活動に参加している。自転車部をはじめ全国大会でも上位の生徒や、サッカー部でレギュラーの生徒もいる。今後も各クラブで活躍し結果を出して欲しい。	クラブ活動への参加は活発にできているが、各種セミナーや体験への参加はまだまだ少なく、興味ある分野についての取り組みができた生徒はほぼいない。アカデミックな思考や行動および体験は学力向上にも直結し、また国公立大学の総合型選抜では学力と合わせて具体的な興味関心が鍵となる。今後は取り組みをより促すとともにそれが普通である雰囲気のできればと考えている。	
	⑥その他 (コース独自で設定する場合は、ここに記入してください)	コミュニケーションを大切にし、生活・学習、進路・将来に対して前向きな姿勢で臨む。教員と生徒の間で約束事を積み上げ進路達成に対して適切な道筋を歩む。 学習への取り組みが集団としてだけでなく個人でも自主的・自発的なものになることを目指す。 中学までは「知識」だけで良かったところに「論理」を加え、さらに「思考」「表現」に至ることを目指す。	連絡事項はipad等による一方的なものよりも直接伝えることを大切にし、成績配布時には適宜面談を実施、欠席連絡に対しては夕刻に確認を入れるなど、教員が生徒・保護者とのコミュニケーションを心掛ける。日直日誌は生徒が日々の記録として最後まで記入する一方、教員も毎日記入する。掃除も生徒任せにせず教員が一緒になって行う。 生徒側にはやらされ感が結構あるようだが、松高の生徒はもっと学習に時間を費やしている。進路を得るにはそれに相応しい取り組みや努力が必要であることをしっかりと伝え前向きに向かっていけるように指導する。		日常における生徒への心配や疑念等は、コミュニケーションにより解消されることが多かった。教員としては、そこに一歩踏み出すことに躊躇してしまう時代だが、踏み出して悪かったことは一度もなかった。今後、失敗のケースも出るかもしれないが、教育は人間同士のコミュニケーションにより行われると信じて継続していきたい。	教員と生徒、教員と保護者、教員と教員のコミュニケーションは不足のところもある。一方的なICTによる方法ばかりを利用しお互いに直接確認しあうことの大切さは軽視される時代になってきたが、最終的に求められるのは気持ちである。教員側が生徒に対して誠実な気持ちで接し、距離を縮め、学校としての指導を理解してもらう努力が続けることが雰囲気活性化の多くを担うはずである。教員側が「どうせ…だから」と短絡的にならずに、生徒と一緒に頑張って生徒をより良い将来に導く教育を展開したい。	

コース等	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	区分	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
進学 コース 進学 アスリート	①学習	(1)高校卒業程度の学力の保障 (2)学習活動・学習時間の定着 (3)学習におけるiPad活用 (4)主体的に学習に取り組む態度の養成 (5)特に英・数・国の充実	・授業時間の充実 ・事後学習(復習)等、課題等の活用 ・スタディサブリ到達度テストの活用 ・スタディサブリ課題配信等の活用 ・Classi及びMetamoji等の活用 ・到達度テスト及び統一テストへの努力 ・2年生の土曜授業の充実		スタディサブリ到達度テストについて、担任の先生主導、スタディサブリ課題配信についても教科担当者に一任していた。統一試験については、現在2年生の冬休み前に過去問を配布済み。2年生の土曜授業については担任の先生方の出張等が重なっていることが多かった。	到達度テストは他コースを含めて時期を統一する必要がある。課題配信についても漏れが無いように各教科内で統一してもらうように呼びかけたい。	
	②生活	(1)基本的生活習慣の定着 (2)校訓・四大綱の徹底 (3)服装・頭髪指導・精勤主義 挨拶の徹底 (4)脱問題行動	・25分遅刻の減少(令和6年度反省) ・校訓・四大綱の毎日のSHRでの確認 ・服装・頭髪・挨拶週間の徹底 ・学校生活アンケートの提出率の推進 ・問題行動が生じた際は、速やかに報告・情報の共有、合同HR等の実施		25分遅刻については、特定のクラス特定の生徒が多い。挨拶等については、授業開始時の挨拶が時間とともに声が小さくなっている。学校生活アンケートの提出率の推進については各学年一定の成果(大半のクラスが80％以上)が見られた。担任の先生方のご尽力である。問題行動については即時対応ができており、臨時の学年集会などは2年生で1度おこなった。	25分遅刻については、12月の報告では2Sが非常に少ない。1年生での徹底が十分に効いているようである。挨拶については、コース会議でも教科担当者等に徹底するように呼びかけをおこないたい。6月の学校生活アンケート結果で回収率88％であった。回収率が上がればいじめ等の発見や防止にもなりうるのでこれからも回収率については担任に声をかけていきたい。	
	③探究活動	(1)探究活動を通じての進路学習 (2)探究活動のクラス発表、学年を超えての全体発表会 (3)アスリートプログラムを踏まえての総合的な探究の完遂	・高1、10月に行う松阪市自主研修の実施 ・高2、探究活動を通して希望する校内進路別ガイダンスへの参加 ・高1・2の終了段階での発表会の実施 ・アスリートプログラムの実施		高1の松阪市自主研修については、昨年度よりアスリート対応のコースも独自設定され好評のうちに終了した。高2の進路別ガイダンスについては1月より準備を始める予定。アスリートプログラムについては、順次終了予定である。高1・2の発表会についてはチーフとの相談が必要。	探究の発表については、NAVIS主任や学年チーフをと相談しておこなう予定。2年の進路ガイダンスについては趣旨を12月中にClassiにて流して、用意をする予定である。	
	④進路	(1)探究活動利用での進路保障 (2)早期からの学部・学科調べ (3)講演会および進路別ガイダンス等を通しての自主的な活動の推進。 (4)中京大学指定校 高3進学クラス全体の約10％を目指す (5)私大合格者高3進学クラス全体の約50％を目指す	・高1での探究(興味関心)よりの学部学科探し ・高2の段階での校内進路別ガイダンスの実施 ・高2の春季の上級学校への見学会の参加の推進 ・高2模擬試験による、受験科目の決定 ・高3模擬試験への参加の推進 ・高3志望理由書の書き方の講座の実施 ・高3面接指導の充実(進学クラス全体の指導)		高1生は、マイナビより進路講演会を行い、各自が進路先探しをしている途中の段階。 高2生は、進路別講演会後に上級学校への見学を勧める予定。また、模擬試験であるが、高3での模試で受験科目で迷うことが想定されているので早期に対応させる。 現高3には、模試参加への推進等促した。 また、志望理由書の書き方の講座も実施できた。さらには、面接指導についても副担の先生方も含めて協力した。 12月18日現在四年制大学への決定者は127名であり、60.4％である。また、中京大学への指定校決定者は24名(11.4％)である。	受験科目の決定には、時間や、本人達の調べが足りない状況であるので、1月の進路ガイダンスの準備段階で受験科目を全員に再考させたい。 志望理由書の書き方講座は、7月におこない、8月に返却されてきた。内容としては講師の説明の上で提出であったが、多分AIの助けもあり内容としてはある程度の見込みも得られていた。なお、今後は7月中(1学期)に返却されるように実施を早期にするべきであるとチーフから反省があった。	
	⑤特別活動	(1)クラブ活動の充実及び時間の確保と推進 (2)県大会・地区大会・全国大会の上位入賞 (3)上位入賞したクラブの紹介および報告・発表	・小テストの曜日固定により、クラブ活動のできる日の確保 ・クラブ顧問による生徒への指導の徹底 ・クラブ活動における進学クラス教員の協力体制		1・2年生については、週2回の⑦限授業もあり外のクラブの練習時間が短くなっている。土日で何とか時間を確保している状況である。	来年度から、土曜日午前中に練習できるのは強化クラブのみということであるので、日頃の練習できない分を土曜日に補充することが可能である。	
	⑥その他（コース独自で設定する場合は、ここに記入してください）	(1)人権の推進 (2)好ましい人間関係を目指す	・日常生活やHRまた、人権HRを通して意識を育てる ・SNS及び各人権問題について考える機会を増やす ・各学年間だけでなく、全(上下)学年を通しての行事の推進		現高3年生のみ人権学修を終えて、卒業前のアンケートの回答及び、集計を行っている最中である。3学期には1・2年生の人権学習も予定されている。現在、人権に関する問題のある発言等の話はない。	1・2年生の3学期での人権学習について、現在は内容が現行通りであれば、1年生はLGBTQ、2年生は部落問題についてである。 いきなりの人権学習では無く、1月中に前ふりして人権学習に望みたい。	

コース等	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	区分	R7 目標	R7の目標達成に向けた取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
六年制 高校部	①学習	生徒をよく観察し、個々に応じたきめ細やかな指導をする。 基本的な学習習慣の指導を徹底する。 基礎学力を高め、広い視野をもって学問に向き合えるような生徒を育成する。	クラス担任、教科担当、クラブ顧問が互いに、生徒の情報共有をして、それぞれの指導に活かす。 定期テストや模擬試験の結果をもとに、面談などをして、学習習慣や学力の確認をする。 生徒会活動や課外活動に積極的に参加できるような環境をつくり、地域社会や世界の文化に直接触れ、自分とは価値観の違う他者とも協働できるような人間形成をする。		・（4年）生徒一人ひとりの様子を丁寧に観察し、担任・教科の各担当との情報共有を通して指導の一貫性を保てた。定期テストや模試の結果を用いた面談も継続的に行之い、学習習慣の見直しや基礎学力の把握に努めた。 ・（5年）必要に応じて補習を行い、特に授業についていくのが難しい生徒に対して手厚い指導を行った。手帳を使うことを推奨し学習習慣の定着を図り、また面談を通して学習習慣や学力の確認等を行った。生徒会活動やクラブ活動の積極的に参加するよう促し、クラスや学年を超えた人間形成ができるよう努めた。 ・（6年）始業前のプリント学習（朝活）や補習を、継続して実施することができた。また、夏休み期間中は大学入試基礎・共通テスト・二次試験の補習を実施した。模試成績の得点率を上げることができた。 ・夏休みのオーストラリア短期留学には4年、5年の29名が参加、韓国英語研修には10名が参加し、国際交流を通して異文化を体験できた。	・4年 学習習慣の改善が必要な生徒への個別フォローが十分とは言えず、継続的な記録や家庭との連携が不足した面がある。今後は面談記録の体系化、保護者との情報共有強化に取り組みたい。 ・5年 家庭での学習習慣が必要不可欠であり、保護者とも連携を強化していく。 ・教科 中・高の教科会議を定期的に開催し、各学年の学習到達目標を明確にし、入試にゆとりをもって得点できるよう指導に努めた。生徒に適した課題を提示するためにも、生徒理解に力を入れたい。授業準備に徹底していきたい。	
	②生活	三重高生としての自覚をもち、どのような場所でも誇りを持てる行動を身につける。 外見にこだわるより、内面を重視することで、落ち着いた雰囲気や学習や部活動に集中できるようにする。 交通ルールを守り、心と時間に余裕のある行動をする。	集団生活をするための良識を持ち、他人に不快感を与えない服装を身につける。 携帯電話、インターネット依存が社会問題になっている。使用に関するマナーや倫理観を身につける。 規則正しい生活を心掛け、心身ともに健康的に過ごす。		・（4年）日々の生活指導を通して服装や態度の改善に努めた。携帯電話・ネット利用に関するマナー指導も適宜行之い、トラブル予防に取り組めた。あいさつや時間管理についても声かけを継続し、落ち着いた生活環境づくりに一定の成果が見られた。 ・（5年）教員間で情報を共有し連携することで、概ね生徒の様子について把握し指導に生かすことができた。特に5年生は心身に問題を抱えている生徒が多く、その都度相談をし、対応を行った。 ・（副担任）身だしなみが整っていない生徒に対しては、その場で声をかけて指導をすることなどに取り組んだ。情報機器の取り扱いについては、著作権や情報モラル等の授業を取り入れて、注意を徹底した。	・4年 生活習慣が乱れがちな生徒への個別支援が十分ではなく、継続的なフォロー体制に課題が残った。今後は、保護者との連携強化、ネットリテラシー教育の計画的実施を進めたい。 ・5年 スマホやSNSの不適切な利用が多く、今後どう指導していくべきが検討する必要がある。 ・遅刻指導 朝、玄関前で登校指導に当たっているが、遅刻する生徒は毎日同じであり、改善がみられない。25分遅刻を含め、常習化している生徒については更に厳格な担任指導の必要を感じる。	
	③探究活動	4年：地域課題解決探究において、データサイエンスの知見を取り入れた定量的な探究を行う。 5年：課題探究において、各種コンテンツに出品できるプレゼンをつくることを目指す。 6年：課題探究において、論文の文字数を全員1万字以上を達成する。	4年：データサイエンスに関する授業の実施、地域創生に関わるコーディネーターによる講義をする。 5年：仮説設定の能力を磨くとともに、夏のフィールドワークの実施率を50%を目指す、そのサポートを強化する。 6年：グループワークの回数を増やし、個人の研究の補完を援助する。ゼミ形式が取れる機会をつくる。		4年：データ活用手法について、授業を1回取り入れた。1月にも外部講師に授業を設定中。 5年：フィールドワーク実施率は30%程度。探究を出品するためのコンテストは見つけることはできた。 6年：学年間の交流会を実施できた。分野ごとに教室を分けて実施することができた。ゼミ形式にすることはできなかった。	4年：独自教材を充実させるとともに、データ活用を早い段階から実践する。 5年：フィールドワークについて、事前の報告と事後の報告を義務化する。担任によるチェックを行う。 6年：5年の2学期から6年と合同でゼミになるように、体制づくりをする。六年制全体で探究をみる体制づくりをする。	高等部の教員でゼミを開講する仕組みをつくるようにする。 生徒の壁うちになるような体制をつくることで、フィールドワークや文献の指示、進捗の把握ができる。そのためには、三年制と異なった探究の授業の持ち方が必要になる。 高等部全体で役割分担をしていく必要がある。
	④進路	国公立大学に6割以上（A組においては8割以上）の生徒が現役合格できるように指導する。 共通テストの全員受験を通じて、6年間に身につけた学力の確認をさせる。	生徒や保護者への発信を丁寧に行之い、指導方針を理解してもらう。 模擬試験を活用して、6教科の力をつける。 万全の状態で共通テストを受けられるよう、出願から当日を迎えるまでの指導を行う。 年内に大学合格した生徒も、全員で共通テストに臨み、学習の意欲を維持向上させる。大学合格がゴールではないことを自覚させ、勉強する姿勢を身につける。		・4年 進路について早い段階から意識できるよう、大学入試制度や必要な学力について説明した。2学期には名古屋大学訪問を実施、事前学習、研究室訪問、卒業生との座談会などを行行之い、進路決定の一助となるように促した。模試を活用して基礎学力の確認を行之い、弱点補強の指導も取り入れた。4年生のうちから学習習慣を整える重要性を伝え、主体的な目標設定を促した。 ・5年 1学期は手帳指導やHRを利用して学習習慣の定着を図り、夏休みにオープンキャンパスへの参加を課した。秋から受験に向けて意識させるため、進路講演会や合同HRを行行之い学習に向けての意欲を高める指導を行った。 ・教科 授業では、教科書レベルの指導にとどまらず、模試や入試レベルでの指導も徹底した。そのために、数多くの模試問題や、入試問題などを調べ、傾向と対策をつかむことを行なってきた。 この取り組みを通して、すこしずつ生徒たちが情報へ向き合う姿勢が変わってきたように伺える。 ・上位層の生徒が入学したいと思う学校であることが重要。本人の進路希望が出るまでじっくり待ち、話をする。	・4年 進路に対する意識に個人差が大きく、将来像がまだ定まらない生徒への働きかけに課題が残った。模試結果の振り返りが形だけになり、学習改善に結びつきにくい面も見られた。今後は、学習習慣定着のための個別フォローを充実させたい。 ・5年 進路に対して意識の差が大きく、また学力の差も大きいため、今後の指導を全体で行うことと並行して、面談等を通して個別で行っていく。同時に、コースとしての方針を保護者・生徒に定期的に伝えていく。目標が実情に合わなくなってきているので、今後検討する必要がある。 ・6年 年3回進路検討会を行行之い、クラス間、学年間の格差をなくすため務めた。 ・探究活動と将来の進路を合致させる指導を行ってはどうか。大学入試の総合型選抜や小論文を受験する生徒を指導していると、探究で扱っているテーマと将来取り組みたいことが全く合致していない生徒が多い。探究の内容を総合型選抜のプレゼンテーション課題や研究レポート、小論文等に活かすことができれば、入試対策の時間を大幅に効率化できる。テーマ設定の際、担任を中心に将来生徒が本当に取り組みたい社会貢献の内容を選定しているか、丁寧な面談が必要であると考ええる。 ・全員取得すべき内容をいつまでにするのか、6年間の各教科のシラバスを作成し、担当者で決め、皆で守り、公表する。学校として身につけるべき最低の学力を示し、それとともに難関大指導を全科目できるようにする。生徒の進路に関して視野を広げるような進路行事も必要。	
	⑤特別活動	進路指導を通して自らが社会の中で果たすべき役割を考えていく。 将来を見据えた行動をし、自分の人生を切り開く力をつける。 生徒会行事では、生徒が中心となって企画・運営し、その活動を通して主体的な学びを確立する。	6年生保護者対象進路講演会（5月） 4,5年生対象 合格体験講話（3月） 4年生 夏休みを利用して、大学オープンキャンパスに参加次年度の文理選択に向けて進路指導をする。 小論文指導をHRで取り入れ、問いに対する自分の意見と根拠を論理的に考え、他者に伝える力をつける。 4～5年 修学旅行に向けて、事前学習や行動計画を立てて、充実した研修ができるようにする。		・4年 進路意識を高めるため、オープンキャンパス参加を促し、生徒が将来を考えるきっかけづくりができた。 ・5年 夏休みには1校以上はオープンキャンパスに行くことを促し、面談を行うことにより進路探究に努めさせた。秋から受験に向けて意識させるため、進路講演会や合同HRを行行之い学習に向けての意欲を高める指導を行った。修学旅行では、目的地にキャリア教育の意味を持たせ指導を行った。3学期にかけて、小論文指導を行う。 ・教科 国公立大学6割以上の現役合格達成へ向けて、共通テスト対策を主軸として二次試験対策にも抜かりなく教科担当者として取り組むことができた。 ・進路指導部として国公立受験を支援する為の書類作成・面接練習及び進路検討会に関わることで、生徒の国公立受験を最大限支援した。共通テスト全員受験は達成できると思われる。しかし、大学入学までの学力維持を生徒全員が意識するという目標の本質までは達成できていないように見受けられる。 ・国公立志望の多いこのコースで論文や研究の話をすることは、生徒たちの大学に対する興味関心を促すことだと思行之い、そのような話をした。その結果、一定数の生徒が、興味を示し、進路を考える機会にはなった。	・4年 進路に対する具体的なイメージがまだ薄い生徒もあり、活動の学びが日常の行動改善につながりにくい点が課題として残った。オープンキャンパス参加後の振り返りも、生徒によって質に差があった。今後は活動後の記録や共有の仕組みを整え、小論文指導も継続して行之い、主体的に考える力の定着を図りたい。 ・5年 オープンキャンパスに参加することで、進路を自分のことと捉えることができた生徒もいるが、まだやりたいことが見えない生徒も多く、今後は各自の進路について調べさせていきたい。 ・進路 生徒が後期受験まで諦めず努力を継続するためには、入試合格に留まらない将来を見据えた志が必要である。生徒が将来どのような分野で社会貢献したいと考えているのか、またその可能性を秘めているのか、三年間を通して継続的な生徒面談の機会を充実させる必要があると考えられる。また、各科目毎に担当者から学習方法をガイダンスし、基礎基本の定着を磐石にする必要性も感じている。	

教育活動改善のための自己評価シート（分掌）

- ・教務部(学習指導等)三年制
- ・教務部(学習指導等)六年制
- ・生徒指導部(生活指導等)
- ・探究推進部(探究教育)
- ・国際教育部(国際教育)
- ・進路指導部(進路指導等)
- ・特活部(部活動・生徒会活動等)
- ・入試広報部(生徒募集等)
- ・保健環境部(保健・人権等)
- ・総務部(総務・庶務等)

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
教務部 (学習指導等) 三年制	○授業時間に対する教員の意識を徹底する。（チャイムと同時に授業を開始する）	全教職員の80％以上が、「チャイムと同時に授業を開始できた」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		アンケート結果では約80％が「概ねできている」または「常にできている」と回答。授業開始の意識は浸透し、遅れはほぼ見られない。一部でチャイム時間のズレや時間設定の見直し要望あり。	時間設定の定期確認と調整の仕組み化。	
	○生徒が主体的・能動的に取り組む授業づくりをする。	全教職員の80％以上が、授業において「生徒が主体的・能動的に取り組む機会を設けている」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		肯定的回答（1・2）は約73％。ペア・グループワーク、発問→説明→全体確認、クイズや時事問題調べなどの工夫あり。課題は基本的態度（挨拶・返事）の育成。	授業参観や事例共有を通じた工夫の横展開。	
	○公開研究授業のより良い在り方を検討し、実施する。	教科内で学び合いが生まれることを目的とする。各教科で研究授業または教科研究会を実施する。ただし評価ではなく、特定の課題に焦点を当てた学び合いの場とする。	「授業内でのipadの適切な活用ルール」「主体的・能動的に取り組む機会に取り入れられているか」等、特定の課題に焦点を当てた研究授業または教科研究会を行い学び合いに繋げる。		「非常に学びに繋がった」「ある程度繋がった」計約43％、一方で未実施約29％。実施率が低く、年間計画に研究授業・教科研究会を設ける必要性が明確。	年間計画に研究授業・教科研究会を設定し、テーマを明確化。	
	○iPadを適切・有効に活用するよう授業改善に積極的に取り組む。	全教職員の80%以上が、「授業においてiPadの使用ルールを生徒に伝え、適切に活用している」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		肯定的回答（1・2）は約82％。Google Classroomで課題配信・提出管理、MetaMojiで演習共有など進展。課題は目的外使用防止、ルール徹底、ICTを「教具」として扱う指導力強化。	ルール明文化とICT活用研修の継続。	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
教務部 (学習指導等) 六年制	○授業時間に対する教員の意識を徹底する。（チャイムと同時に授業を開始する）	全教職員の80%以上が、「チャイムと同時に授業を開始できた」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		アンケート結果では約80%が「概ねできている」または「常にできている」と回答。授業開始の意識は浸透し、遅れはほぼ見られない。一部でチャイム時間のズレや時間設定の見直し要望あり。	時間設定の定期確認と調整の仕組み化。	特にありません。
	○生徒が主体的・能動的に取り組む授業づくりをする。	全教職員の80%以上が、授業において「生徒が主体的・能動的に取り組む機会を設けている」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		肯定的回答（1・2）は約73%。ペア・グループワーク、発問→説明→全体確認、クイズや時事問題調べなどの工夫あり。課題は基本的態度（挨拶・返事）の育成。	授業参観や事例共有を通じた工夫の横展開。	特にありません。
	○公開研究授業のより良い在り方を検討し、実施する。	教科内で学び合いが生まれることを目標とする。各教科で研究授業または教科研究会を実施する。ただし評価ではなく、特定の課題に焦点を当てた学び合いの場とする。	「授業内でのipadの適切な活用ルール」「主体的・能動的に取り組む機会に取り入れられているか」等、特定の課題に焦点を当てた研究授業または教科研究会を行い学び合いに繋げる。		「非常に学びに繋がった」「ある程度繋がった」計約43%、一方で未実施約29%。実施率が低く、年間計画に研究授業・教科研究会を設ける必要性が明確。	年間計画に研究授業・教科研究会を設定し、テーマを明確化。	特にありません。
	○iPadを適切・有効に活用するよう授業改善に積極的に取り組む。	全教職員の80%以上が、「授業においてiPadの使用ルールを生徒に伝え、適切に活用している」と自己評価する。	1 2 月に自己評価アンケートをすることを伝えることで、教員の意識付けを行う。		肯定的回答（1・2）は約82%。Google Classroomで課題配信・提出管理、MetaMojiで演習共有など進展。課題は目的外使用防止、ルール徹底、ICTを「教具」として扱う指導力強化。	ルール明文化とICT活用研修の継続。	特にありません。

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
生徒指導部 (生活指導等)	○生徒が校則を遵守し、安心・安全かつ充実した学校生活を送ることができるよう、服装・頭髪指導、礼儀・作法指導等、きめ細かな指導を行う。	○四大綱の実践 ○規則正しい生活習慣の確立 ○貴重品管理の徹底 ○挨拶の励行 ○心身の成長に親身に寄り添う。	○生活が全ての基盤となる ○集団生活での規律を学び校内でのルールを守り社会的資質を向上させ人間的成長が臨める環境づくりにつとめる ○生徒との対話を重視（コミュニケーション） 保護者との連携		○問題行動、ランク指導は数件あったが、ほとんどの生徒は三重高生として四大綱を実践している。問題行動のあった生徒に関しても継続的にコミュニケーションをとり再発防止に努めている。 ○今年度（12月現在）貴重品盗難は0件 ○挨拶に関しては、もっと元気な声が飛び交うように取り組んでいきたい。	○頭髪服装の乱れが心の乱れに繋がると考え更に厳しく声掛けをしたい。 ○挨拶も同様に活気のある気持ちの良い学校を目指して取り組みでいきたい。 ○成長途中の高校生だからこそ間違いや失敗があっても当然であり問題行動のある生徒はその失敗を受け止め、反省し次に生かせるための指導がしたい。	
	○交通ルールの遵守、列車・バス車内の乗車マナーの育成、自転車通学路の順守等交通安全指導を徹底する。 （Weekly交通安全指導、一斉登下校指導の全教員の参加）	○交通事故ゼロ ○地域とのより良い関係 ○交通マナーの徹底 ○自転車安全運転の徹底 ○高3時の自動車免許取得に関する注意の徹底	○公共交通機関でのマナーの徹底 ○交通安全講話の実施 ○毎日の登校指導、一斉登下校指導（通学路での通行ルール・マナー指導） ○校外指導の実施（街頭巡回） ○列車・バスへの添乗 ○自転車整備・点検の実施		○対自動車、対自転車の交通事故は数件あり ○公共交通機関での乗車マナーに関する苦情や自転車通学に関する苦情は多数あり ○交通安全講話を松和自動車学校に依頼し実施 ○12月現在、自動車学校からの苦情等はなし	○道路交通法改正により自転車の乗車違反は反則金が課せられるようになることなど、より一層生徒に対する注意喚起が必要である。 ○公共交通機関での苦情、自転車通学の苦情に関しては、周囲への配慮や思いやりの精神、相手に対する敬意を持った接し方や対応ができるように日頃から訴えかけていく。	
	○クラス担任と協力して始業5分前指導を継続して行い、遅刻者数各クラスゼロを目指す。	○遅刻者ゼロ	○規則正しい生活習慣の徹底 ○時間を守ることの大切さを理解し時間に余裕を持ち計画的に行動させることで交通ルールを守ることや事故防止に繋げる		○5分前に行動する意味を今一度、全校生徒に周知し、習慣づける必要がある ○遅刻者報告用シートへの記入も担任によって様々で正しく入力されているクラスとそうでないクラスがある。	○5分前の放送が鳴っていても慌てる様子もない現状がある。また同じ生徒の遅刻が目立つため個別に指導する必要がある。	
	○自転車での登下校時のヘルメット着用率を高める。	○登下校時のヘルメット着用率100％	○自己防衛の意識を高める（担任よりの講話を依頼） ○自転車事故の5割が頭部に致命傷を負うことから道路交通法が改正されヘルメットの着用が努力義務化されたことを理解させる（集会などでの呼びかけ）		○1部の生徒は着用しているが、新たにヘルメットを購入した生徒、着用する生徒はいなかった。	○自己防衛意識を高め交通事故に遭った時に自分の身を守る大切な道具であることを根気強く伝えていく。	
	○学期に一度の学校生活アンケートや担任による個人面談の実施、クラスやクラブにおける仲間づくり等を通し、いじめの未然防止、早期発見に努める。（年間を通して「いじめ防止週間」を設ける）	○いじめの早期発見・早期対応 ○非行ゼロ	○学校生活アンケートの実施 ○相談室の活用、連携強化 ○担任・授業担当者との連携による生徒の変化に対する気付き ○防犯講話の実施 ○SNSの健全かつ安全な使用の徹底（講話の実施・モラルの向上）		○学校生活アンケートの内容から早期発見、早期対応ができた。 ○保健室、相談室からの報告で明らかになった事案もあり連携は取れていると感じた。 ○三重県警察に依頼し防犯講話（SNS関係）の実施	○無記名のアンケートのため当該生徒を特定することが困難な場合もあるが、生徒への聞き取りや声掛けなどの行動を積極的に行い早期に対応していく。 ○万引きや不適切な投稿、ビースや怠け学などの問題行動があった。現時点で特別指導や更生指導が有効であれば大きな事案になる前に対応できるのではないと思う。	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
探究推進部 (探究教育)	○生徒が自ら課題や問いを設定し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。	特進クラス…高校生活を通して人間力を磨き、「自分が変わる」ことで「社会を変える」自觉をもつ。 選抜クラス…自分の強みを伸ばし、将来活かせる素養を身につけるために社会に関心をもつ。 進学クラス…探究活動を通して社会との関わりを意識し、その中で活かせる力を身につける。 アスリートクラス…探究活動を通して、競技活動で得た経験を社会に発信する力を身につける。	学校生活、キャリア形成、探究活動を体系化し、,生徒の能力向上をはかるため、「年間活動計画シート」の策定と実施、改善		NAVIS1年「土曜講座」の活用…学習支援(学力に応じた内容)、探究活動(探究への導入) 学童「ワイワイラボ」に参加…英会話、理科実験、プログラミングなど 栄養講座(味の素)、テーピング講座(Body Design Works)	NAVIS2・3年次の2単位について、担任・副担任教員の持ち時間と手当て	
	○策定したカリキュラムを実施し、改善・充実を図る。	「課題解決型プログラム」の実施、地域社会との連携 1年次：探究サイクルの経験する 2年次：自分の学びと進路意識をつなぐ 3年次：自分の志望理由を表現する	NAVISコースの探究カリキュラム、シラパスの策定		NAVIS2・3年次のシラパス・ループリックの策定	NAVIS2年の探究授業について、助言者の選定とスケジューリング NAVIS3年次の専門科目について、内容と担当者の決定	
	○地域との連携を図り、外部の教育力を活用する。	STELLAコース…設定した課題の解決のため、地域を検証や行動をおこす場とする。 NAVISコース…1年次：自分の特性や興味・関心を知り、地域社会にどう生かせるかを考える。 2年次：社会に目を向けて課題を探り、その解決策を考える。 3年次：職業そのものを多角的に学び、課題と解決法を考える。	1年次：市内フィールドワークの実施と改善 2年次：地元企業と連携したインターンシップの実施と改善		STELLA1T「名古屋市内フィールドワーク」の実施 NAVIS1スポーツ科学系「市内スポーツ施設」での研修・体験 2学年「サマーインターンシップ」の実施(68名参加)	フィールドワークについて、雨天時の日程調整 インターンシップについて、担任教員の負担	
	○DXを活用した探究を推進する。（アスリートクラスは、DXを活用したスポーツ探究を実施する）	アスリートクラスにおいて、スポーツのスキルアップとともに、学びの多様性と進路の可能性を広げる。 NAVISコースにおいて、データサイエンスの基礎を学び、地域探究に活かす。	検索エンジン、RESUSなど統計資料によるデータの収集、活用 映像分析アプリFL-UXの活用		「DXハイスクール事業」採択校 スポーツ探究の推進…InBody、WITTY、KnowsによるスポーツのDX化 ビッグデータを利用した地域探究の推進…ビッグデータ・AI活用講座(生徒・教員向け)	STELLAの探究活動へのDX導入 講座・講演会のスケジューリング	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
国際教育部 (国際教育)	○ACGS・BGGS（姉妹校）との交換留学を推進する。	【短期留学】 ・7月27日（日）～8月4日（月）ACGSに10名、BGGSに20名の生徒を短期交換留学生と教職員3名を派遣することを目標とする。（生徒は、全日程をホームステイをしながら、各姉妹校に通学させる） ・10月から、R8年度の短期留學生の募集を開始する。 ACGS・BGGS共に15名ずつ、最大30名を募集することを目標とする。(短期留學生選考試験を実施する。) 【留学受け入れ】姉妹校2校を春と秋にそれぞれ受け入れすることを目標とする。 ・11月から、R8年度の本校へのACGS、BGGS短期留學生受け入れフォストファミリー15名+15名の合計30名以内の募集を目標とする。	【短期留学】 ・オーストラリア短期留學生対象の事前学習を計画する。（オーストラリアの自然、文化、オーストラリア英語などについての講義など） ・旅行社による保護者説明会（パスポート・ビザ取得など）を計画する。 ・教職員には、パスポート・ビザ・ブルーカードの取得など事前準備を計画的に行う。特に、ブルーカードについては、新しい制度のため、姉妹校、州政府、オーストラリア領事館の指導を受ける。 ・ホストファミリーとのマッチングのため、担当者同士での国際会議を開催する。 【留學生受け入れ】 ・姉妹校とオンラインで国際会議を実施し、ホストファミリーと短期留學生同士のマッチングを行う。 ・保護者対象、受け入れ説明会を計画する。 ・受け入れ時、集会を計画し交流を深める。 ・クラス、クラブ、学校行事での姉妹校の受け入れ体制を整える。特に授業の担当者には教材の準備をはじめとして丁寧に説明と依頼をする。（クラブは、茶道部・華道部体験やクラブ活動参加など） ・姉妹校のみで行う独自のアクティビティーを計画する。（松阪市内の木綿センターでの体験、長谷川亭でのお茶会、日本家屋の学習会、伊勢神宮へのexcursionなど）		・年度当初の計画通り、短期留学を実現させることが出来た。対象が六年制の生徒であることから引率者については、坂口先生を軸に森田先生と共に今後しばらくの間、担ってもらえるよう意識と責任を持って取り組んでもらった。 ・日本と比べると渡航先の物価が高いことから自己負担を余儀なくされていることもあったので、予算項目を詳細に挙げて説明を行い、その負担を極力抑える努力をした。 ・姉妹校との連絡のやり取りについては、オーストラリア出身の教員がいてくれるので、大変心強い。 ・保護者対象の説明会では、旅行業者から各種手続きやそれに伴うアプリの説明を行ったが理解が不十分なことがあり、後日に質問を受けることになるが、教員側も熟知していない点もあるので、問題解決までに時間がかかったり不信感を招くような事態になる場面があった。引率経験者からの説明は、数多くのスライドをエピソードや注意すべき点などを交えて行えるので、渡航前の生徒保護者にとっては安心感を与えることが出来た。 ・旅行保険については、ほぼ強制のスタイルで加入を勧めたが、各家庭に任せため、加入の確認に時間を要することとなった。 ・出発時、空港までの移動を電車にしたため、荷物を空港に1週間前に宅配で送る手段をとったので、見直し検討が必要になった。	・引率者について、特に5月から夏休み前半までの期間は、準備(事前指導、事前学習会、保護者からの質問・意見対応など)に追われることになる。帰国後においても事後学習やレポート作成などがある。進学を重視した特進や六年制高校部の先生方にとっては、補習や個別の指導なども一部時期が重なり大きな負担を負わせることになるので、人事を決定する年度末には以上の点を踏まえ計画的に引率者をローテーションさせていけるよう配慮の必要を感じる。 ・本校生え抜きの教員だけで継続できるよう仕組みを整えていく必要を感じる。 ・引率者のこの国際交流事業に対する意識の問題で、学校の存続という観点で更に発展させ継続していくよう共通認識を英語科教員を中心に育てていくこと。そのためには最低限、金銭的に個人負担をさせないことが肝要。 ・人事異動や退職など、本校も相手校も役職・係が変化していくので、今年度、理事長と校長が現地まで足を運んだように、人と人のつながり(教員間)を重んじていかなければならない。 ・海外渡航において、引率教員にかかるストレスは、添乗員の有無によりその差は大きい。経験などにより個人差があると思われるが、基本的に添乗員をつけるべきである。ない場合は手当などで補う。 ・旅行保険は代金に含める形で一括加入とする。 ・空港までは往復共にバスの移動を検討する。	
	○成都外国語学校（姉妹校）との姉妹校提携の活用を推進する。	【日中交流協会の長期招聘事業】 ・日中交流協会が実施している中国高校生の長期招聘事業に参加し、成都外国語学校の生徒の受け入れを継続することを目標とする。 【姉妹校提携を通じて】 ・姉妹校提携を利用して、本校の放課後、月に一回程度、姉妹校の「日本語」の授業1コマをオンラインシステムを用いて交流し、国際感覚豊かなグローバル人材の育成を目標とする。	【日中交流協会の長期招聘事業】 ・7月に留学終了の集会を計画する。 ・ホームステイ先との連絡強化。 ・学校行事、クラブ活動に対する支援。 ・学習支援を計画する。 ・秋から一年間新たな生徒を迎える準備をする。 【姉妹校提携を通じて】 ・オンラインでの交流を促進するため、日中交流協会との連絡強化が重要。姉妹校とのオンラインをスムーズに実施できるようになることを目指す。 ・普段から姉妹校の担当者とのオンラインによる国際会議を行い、意思疎通をはかる。		○現在、日中交流協会を通じて、オンラインの交流をしているが、中国の学校とは、ZOOMは交流は出来ているものの、中国側がZOOMのホストとなって交流会を主催出来なくなっている。また、本校にもZOOMの有料版がないので、オンライン交流会を実施するときは、日中交流協会がZOOMのホストとなっている。	○中国と日本には時差があり、オンライン交流会の開催時間が遅くなっている。また、日本語による交流が多いが、英語のみの交流会も計画している。ただし、母語を英語としない者同士の、しかもオンライン交流のため、本校生徒の英語力向上を進め、会話力をつけることが大事であると考える。また、姉妹校の成都外国語学校の担当者との間にさらに密接な関係を構築する必要がある。	
	○韓国での語学研修（英語学習）の充実を図り、実施する。	・4月中旬、参加募集を開始し、20名以上、最大30名の目標とする。教職員は2名以上の派遣を目標とする。 ・7月21日（月）～7月28日（月）で実施することを目標とする。 ・韓国の情勢、歴史的な日本と韓国との国際関係について学ぶ事前学習を充実させることを目標とする。 ・鈴鹿国際大学の韓国人留學生による韓国事情、簡単な韓国語の学習会を計画する。 ・韓国の現地では、ソウル市内を中心に歴史的観光名所を訪問し、事前学習とフィールドワークを通じて見識を深める。 【バジュ英語村】 ・英語オンリーでの研修のため、英語力向上に向けた事前学習をする。 【韓国の高校生との国際交流】 ・誠庵国際貿易学校を訪問し、高校生同士の国際交流を深め、国際感覚を醸成する。 ・ソウル市内で、韓国の高校生と同一のグループでフィールドワークを行うことを目標とする。	・参加者募集のピラを作成し、国策で英語学習に力を入れている韓国の「バジュ英語村」での英語学習の魅力を発信する。 ・日本と韓国の国際関係や、バジュ英語村での英語学習について学ぶ事前学習を、数度計画する。 ・旅行社による保護者説明会の実施、パスポート取得説明会などを行う。 ・鈴鹿国際大学の留學生を講師に招き、韓国語と韓国について学ぶ。 ・現地校で行う生徒による、「本校紹介プレゼンテーション」の準備をする。 ・現地校とのオンラインによる国際会議を計画し、ソウル市内のフィールドワークのグループ分けなどを計画する。 ・事後学習として、参加者した生徒には2学期の始業式に報告会を義務付ける。		・年度当初の計画通り、語学研修を実現させることが出来た。対象が三年制と六年制の生徒で広範囲にわたっていることと韓国への引率経験をもつ教員が少なくないので、入選に苦慮したが、山口先生がまずは軸となって今後は継続していくよう意識と責任を持って取り組んでもらった。 ・日本と比べると渡航先の物価が高いことから自己負担を余儀なくされていることもこれまでにあったので、その負担を極力抑える努力をした。 ・保護者対象の説明会では、旅行業者から各種手続きやそれに伴うアプリの説明を行ったが理解が不十分であることが多かった。後日に質問を受けることになるが、教員側も熟知しているわけではないので、問題解決までに時間がかかった。引率経験者からの説明は、数多くのスライドをエピソードや注意すべき点などを交えて行えるので、渡航前の生徒保護者にとっては安心感を与えることが出来た。 ・旅行保険については、ほぼ強制のスタイルで加入を勧めたが、各家庭に任せため、加入の確認に時間を要することとなった。 ・オーストラリアの短期留学に倣い、今年度から帰国後の総括としてレポート集を作成した。 ・出発時、空港までの移動を電車にしたため、荷物を空港に1週間前に宅配で送る手段をとったので、見直し検討が必要になった。	・空港までは往復共にバスの移動を検討する。 ・募集の時期が遅かったため、全員のパスポート取得の確認に時間的余裕がなかったので、一連の計画を約1ヵ月早める必要がある。 ・上述のオーストラリア短期留学と共通	
	○英語セミナーの実施と充実を図る。（ナービスアスリートクラスの参加推進、英語力の向上を図るプログラムの検討）	・県内のALTの協力により、年数回、土曜日を利用して、三重県内最大規模の英語セミナーを実施する。 ・特に、ナービスアスリートクラスの生徒は、クラブの公式戦以外は、英語セミナーへの参加を義務付ける。	・ナービスアスリートクラス以外に、三年制1・2年生の土曜講座の一つに位置付け、参加者を増やす。 ・アスリートクラスの生徒には、国際大会で活躍することを求められている。そのためには、海外の選手・役員と英語でコミュニケーションできる確かな英語力が必要となっている。本校の英語セミナーの講師は、文化的背景の異なる世界各国出身の講師であり英語教育の専門家である。時節に合わせた「クリスマス」、「ハロウィン」など様々なテーマをプログラム化した英語セミナーに参加させ、文化的背景を理解できる世界で通用する英語力をつけるきっかけづくりとしたい。		・外国人講師の人数に限りがあり、受講する生徒の人数は多すぎても少なくてもよくないので、募集の仕方に難し点がある。希望者を募る形で適正人数が集まるのが望ましいが、受講人数にムラがあった。平素の授業で基礎学力を身につけさせ、セミナーへの参加に移行するようもっと工夫が必要である。 ・外国人講師の方々は、みんな本校の生徒に対してとても好意的かつ協力的であるので、生徒たちは活発にコミュニケーションを楽しみ学んでいる。	・三重県最大の英語セミナーを実施している意義は、かなり理解されているものの、セミナーの準備、ネイティブとの交渉など、膨大な時間と労力が必要となる。 ・現在行われている英語セミナーを発展的に継続させるためには、一人ひとりの講師と国際教育部に携わる人が強く結束し、みんなで作り上げていく意識をもつよう環境を整える必要を感じる。できれば飲食を伴う懇親会議を企画し、忌憚のない意見を吸収し、セミナーにフィードバックできるよう進めていきたい。	
	国際交流を推進する。	・グローバル人材の育成を目標に、本校生と世界各地から日本に来ている高校生との交流を計画したい。 ・コロナ禍以前のように、外務省、文部科学省、県、市町の国際化事業でこの地域を訪れている学校との交流を考えたい。	国際交流を通じて、異文化に対する理解と認識を深め、自らの生活や地域社会・文化を考えるきっかけ作りとしたい。 この地域の特性を活かした幅広い交流を行うことによって、言語や生活・習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行い、国際社会に貢献する豊かな人間形成をしたい。		・左記の計画取り組みについては、全くできていない。	・オーストラリア短期留学と韓国語学研修の参加希望者が、募集定員に対して大きく上回ることが現状としてないので、生徒に提示する選択肢は極力控えておきたいと考える。	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
進路指導部 (進路指導等)	○中京大学進学へのプログラムを再構築し、特別推薦入試利用を推進する。	中京大学の特別推薦入試の利用者70名以上を目指す。(2025年度入試：68名、2024年度入試：70名、2023年度入試：62名)	生徒・保護者への情報提供 ○進路行事(6月)での学部・学科ガイダンス ○中京大学オープンキャンパス(7月) ○Classiを通じた中京大学の案内 教員への情報提供 ○教員対象入試説明会への参加促進 ○高3担任以外への特別推薦入試の情報の周知		中京大学の特別推薦入試の利用者70名以上という目標に対して、結果は出願82名(専願53、併願29)であった。 進路行事でのキャリアガイダンス(高1・高2全員+高3希望者)やPTA総会での高3保護者を対象とする中京大学説明会が役立ったと考えられる。	7月に行われる中京大学のオープンキャンパスは、以前は学校行事として参加していたが、バス代の高騰や引率教員の都合で近年は実施できていない。特別推薦入試を受験するにあたり、中京大学のアドミッション・ポリシーや教育・研究内容を十分に理解することは不可欠であるので、学校・進路指導部としてその方策を考えていく必要がある。	次年度は高3のクラス数が-3となることから、早期かつ丁寧な指導を心がけなければならない。
	○国公立大学への現役合格者数の増加を目指す。また、医学部医学科を含めた難関大への合格者数の増加を目指す。	国公立大学への総合型選抜・学校推薦型選抜での合格20名以上を含め、現役合格100名以上を目指す。また、東大・京大に複数名と旧帝大・難関大（医学科を含む）に20名以上の合格を目指す。	総合型選抜・学校推薦型選抜では明確な志望理由を持っているかどうかが重要になるため、高1・高2の段階から進路研究を進めるように指導を行う。 一般選抜においては、多くの大学で大学入学共通テストの配点が大きいため、それに対応する学力を身につけられるように指導を行う。		12月17日現在で、国公立大学の総合型選抜で2名、学校推薦型選抜で18名、合わせて20名(K:3 T:8 A:9)が合格している。総合型選抜・学校推薦型推薦についての目標は達成されている。	国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜は出願準備・受験対策に多くの時間を要する。生徒の進路希望を早期に把握し、総合的な探究での取り組みにも関連付けさせることで、合格率を高めることにつながるはずである。 一般選抜に関しては、共通テストに対応する学力を身につけさせることが重要であり、教員向けの研修会などの情報をより一層提供していく。	
	○キャリア教育を推進する。 (進路講演会、キャリアデザイン講座、出前授業)	学問に対する興味関心や将来の仕事に対する理解、また就職に対する生徒の理解を深め、進路意識を向上させる。	○中京大学によるキャリアデザイン講座(高1・2全員対象) ○県立看護大学キャリアデザイン講座(希望者) ○医療系および公務員ガイダンス(希望者) ○各病院等での看護体験(希望者) ○夢ナビを活用した学問研究		計画した講座やガイダンスは予定通り実施することができた。特に希望者を対象とする企画は、熱心に説明を聞いたり、講師に質問したりする姿が見られた。一方で、夢ナビの活用は資料の配布に留まっている。	希望者を対象とする講座やガイダンスは参加者に事後アンケートを実施し、先輩の声として次年度の案内文書に掲載することで参加者を増やす工夫をしたい。また、夢ナビの活用は総合的な探究の充実にもつながるので、担任の先生にも情報発信をしていきたい。	
	○模試（スタディサポートを含む）を活用した進路指導の体制を推進する。(データ分析に基づく指導の振り返りと対応策、面談による指導の手厚さの推進)	模試成績の分析を行い、生徒・コースの現状を把握し、教員間での目標共有を行う。	模試結果から生徒の理解度を分析し、各教科の教員が授業にフィードバックできるように情報を提供する。必要に応じてベネッセや河合塾による分析会を開き、他校比較や過年度比較を行うとともに、全国や近隣の学校で実績を伸ばしている事例を学ぶ。		三年制の取り組みとしては、年度当初に第1回スタディーサポートの分析会をコース別を実施し、他校比較や過年度比較を行った。六年制ではそれに加えて高3の進路検討会により、模試の成績と卒業生の受験結果を比較し、志望校の絞り込みを行っている。	基礎学力の定着のために、高1・高2はスタディーサポートを年2回実施とし、学習習慣が確立できているかを細かくチェックしていく必要があるのではないかと考えている。	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
特活部 (部活動・生徒会活動等)	○生徒会活動への生徒の参加意識を促進し、生徒会行事に限らず学校行事が生徒主体で進められるように支援する。	・生徒会役員が本校の行事を通して、主体的かつ意欲的に参画していく環境づくりを目標とする。	・スポーツ大会、翠巒祭、体育祭、三送会等の学校行事が生徒主体で構築されるよう教員が計画的にサポートする。 ・生徒会と体育探究がコラボし、新しい企画、種目など三重高校独自のものを考案する。		・体育探究の生徒に体育祭の企画運営に取り組ませた結果は、見直しをしたり企画文書を作ったりすることで、改めて、色々なことを考慮して企画することの大切さや苦勞を知ることができ、充実したものになった。 ・今まで教員が主体となり取り組んでいたものが少しずつ生徒中心に活動ができるようになってきた。特に体育祭は体育探究受講の生徒が中心となり、企画・運営を行った。	体育祭の運営面までは、時間がなく、取り組むことができなかった。来年度以降は、生徒たちで運営までやっていけるように工夫していきたい。今年度の学園祭では、各クラス企画を考える前から学園祭テーマを生徒会から発表した。その結果、テーマに沿った企画・タイトルを各クラスが考えられる事となり、学校全体としてまとまりのある学園祭の雰囲気を作ることができた。しかし、来場者の入場制限の徹底や、学園祭中の服装や髪型の制限について、学校全体として認識の統一が必要であった。	
	○全国高校総体、全国高総文祭等全国大会に出場するクラブ数の増を目指す。	・全国高校総体に最低8クラブ60人の出場を目標にする。また全国高総文祭等全国大会に毎年いずれかの部が出場できることを目標とする。	・強化クラブ生徒からなるアスリートクラスで、トップアスリートに必要な知識や人間力等を身につけるため、毎月アスリートプログラムを行う。 ・探究活動を通じ、科学的なトレーニング方法や理論を学び、現代にあった練習方法を構築する。 ・計画的にハード面の支援を行う。		・全国高校総体には10クラブ66人が出場することができた。一方で全国高等学校総合文化祭に出場することはできなかった。	・たくさんのクラブ、生徒が出場することにより、生徒会費の予算が厳しい状況になってきている。早急な改善策がもとめられる。	
	○部活動やその他の個人活動の成果を学校全体で共有し、讃える取組を推進する。	・朝の打ち合わせでの大会結果の共有 ・HP、Instagramへの掲載 ・東海、全国大会入賞の全校集会での伝達表彰 ・県大会ベスト4以上の昼休みセンタープラザでの伝達表彰 成果を共有し讃える取組を目標とする。	・大会終了ごとに、朝の打ち合わせでの大会結果の報告、HP、Instagramへの掲載を行う。 ・始業式、終業式で東海大会、全国大会入賞の伝達表彰を行う。 ・昼休みにセンタープラザで県大会ベスト4以上の伝達表彰を行う。(6,9,12,2月予定) ・終業式で全国大会出場クラブの壮行会を行う。		・大会結果は朝の打ち合わせで、県大会上位入賞はセンタープラザで、東海大会上位入賞は始・終業式で行い、学校全体で共有することができた。	・県内表彰は昼休みにセンタープラザで行っているが、表彰者が多いと準備・運営をしていている放送部の昼食の時間がないなど問題もあるので長くても15分で終わるようにしていきたい。	

分掌名 (業務内容)	期首 (R7年4月) *文字数制限なし			期末 (R7年12月末時点) *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
入試広報部 (生徒募集等)	○新コースについての周知徹底を行う。(各中学校・塾)	・部長・コース主任・学年チーフ・部活動顧問との連携を密にしたうえで各コース(クラス)の取り組みを共有し、その情報をわかりやすくまとめる。 ・中学校の教員や生徒・保護者に、令和8年度入試の生徒募集の内容をより早く、より正しく理解してもらうため、本校の取り組みや入試情報等を中学校に的確に伝える。 ・例年の恒例行事だけでなく、要望やニーズに応え、本校アピールの機会を増やす。	・日頃のコミュニケーションに加え、各会議の内容を入試広報部内で共有し、配布資料や説明会スライドに反映させる。 ・コース再編の意図について改めて説明するとともに、特に変更点や新しい取り組みについてはより丁寧に説明する。(訪問日程等については別資料にて示す。) ・ホームページやSNSでの発信に加え、オンラインを活用したイベントを企画する。		・本校の先生方と連絡を密にし、適切な情報発信を行うことができた。ただし、引き続き「STELLAコースの特進クラスと選抜クラスの違い」や「NAVISコースの特色」について質問を受ける機会がある。 ・入試広報部内で日々コミュニケーションを取り、情報を共有しながら各エリアの中学校を訪問した。また、説明会用のスライドを刷新し、新コースの目指すところをアピールした。 ・SNSでの発信は有効であった。	・各コースの特色をさらに明確に打ち出す必要がある。説明会やオープンスクールの限られた時間の中で、コンパクトにアピールできる方法を考えたい。 ・SNSでの発信は効果があるものの、発信者について、特定の先生に依存している現状である。役割分担を明確にし、担当者の負担を軽減する必要がある。	
	○募集定員確保に向けた取り組みを強化する。(生徒減の中確実に確保できる対策)	・中学校の教員や塾関係者と繰り返しコミュニケーションを取り、信頼関係を構築する。 ・中学校の生徒・保護者に、コース制のメリットと魅力を十分にアピールする方法を構築する。 ・主に県内の中学校卒業生数を分析し、今後の募集定員についての見通しを検討する。	・入試広報部員より定期的に連絡を入れるとともに、問い合わせには即対応する。 ・これまでの取り組みに加え、在校生へのアンケートを実施・分析し、中学生や保護者に生の声を届ける方法を構築する。 ・入試広報部としての分析結果を理事会に報告する。 ・振替休日の確実な取得と有給休暇取得率の向上。		・中学校の先生方との信頼関係はできつつある。定期的な連絡や訪問、問い合わせへの素早い対応は実施できた。 ・新入生や在校生へのアンケートを実施した。また、今後の中学校卒業生数を分析し、今後の見通しについて検討を重ねた。	・目標としていた取り組みについては実現できたように見えるが、現状維持が精一杯であった。そして、今後の生徒数の減少を考えると、現状維持では乗り切れない。 ・入試広報部員の時間的な余裕と入試広報部以外の先生方の積極的な協力体制の構築が必要である。	
	○オープンスクールのプログラム内容や時間設定等を再検討する。(受験者層やその保護者にとってより有益な内容の検討、生徒会の運営への参加も検討)	・早い時期から周知徹底を図り、参加者数を増やす。 ・効果的なアンケートにより改善点を洗い出し、今年度内に新しい運営内容の大枠を作る。 ・先生方にも積極的に関わっていただくとともに、生徒の活動機会を創出する。	・中学校訪問時にポスターと個別チラシにて案内するとともに、SNS等でも周知する。 ・全体説明をコンパクトにし、参加者の自由度を高める。 ・各コースや各部署のブースを設定し、先生方や生徒の協力を仰ぎながら一緒により有益な内容となるように議論する。		・県内の中学3年生については全員に案内を配付し、SNSも含めた広報展開を行った。 ・アンケートの評価も高く、「オープンスクールに参加したことにより第一志望になった」という声も複数あった。 ・当日の運営に関わってくれた生徒会や放送部、会場設営や当日の案内にあたってくれた運動部の生徒、校内案内地図を作成してくれたボランティア部、「高校生活を語る」や各ブースで説明してくれた生徒など、生徒の協力に助けられた。 ・各ブースについてもそれぞれのコースで工夫していただけた。	・先生方全員に出動をお願いしたが、不満の声もあった。オープンスクールは入試広報上重要な行事であり、特に各ブースについては更なるブラッシュアップを続ける必要があるので、先生方の当事者意識の醸成が課題である。 ・クラブ活動について「見学したかったのにできなかった」という声が複数あった。オープンスクールの日はできる限り校内での活動の実施をお願いしたい。	
	○三年制ホームページの改修を検討し、生徒募集の充実を図る。	・予算と担当割当を明確にし、改修に向けて動き出す。 ・戦略的にSNSを運用し、アクセス数の増加につなげる。 ・検索によって表示される口コミの改善を目指す。	・ホームページの担当部署や担当者が曖昧という現状を解消し、更新頻度を高めるとともにアクセス数を増やす。 ・Instagramとの連携を強め、Instagramからの流入を増やす。また、公式LINEによる中学生への直接的アプローチについても導入を検討する。 ・先生方に口コミの現状と生徒募集への影響を周知し、建設的な不満に対しては適切に対処する。		・担当部署や担当者が曖昧という課題は解消できなかったが、係の先生方のご協力により、HP上の気になる箇所については修正できた。 ・中学3年生限定のLINEについて、導入を実現できた。 ・InstagramやLINEからの流入によりアクセス数は増加していると思われる。	・各クラブやコースに担当者をつけ、最新情報に更新する。 ・ただし、結局「個の力」に頼ることになるため、分掌としての目標設定に加え、手当や軽減についての議論が必要になる。	
	○より質の高い意欲に燃えた生徒を、より多く集める。	・志願者の希望と本校が求める生徒像のマッチを目指し、学力レベルに応じた消極的選択ではなく「行きたい」という積極的選択により進学する生徒を増やす。 ・入学時より成長した卒業生の様子を発信する。 ・効果的なアンケートにより生徒の状況を的確に分析する。	・先生方に在校生に対するきめ細かい指導の継続と志願者への魅力発信材料の提供をお願いし、特に四大綱については、志願者への意義と魅力の周知を進めるとともに、校内における啓発をお願いする。 ・学習成績や探究活動、部活動における成長の様子を発信する。 ・入試広報部発信によるアンケートを実施し、本校や各コースを選択した理由や選択した時期について分析する。		・志願者の希望と本校が求める生徒像のマッチを目指して活動した。 ・先生方に在校生に対するきめ細かい指導の継続と志願者への魅力発信材料の提供をお願いし続けたが、当事者意識の醸成は難しい。	・新しいアイデアを話し合うための時間的な余裕と建設的な会議の設定が必要不可欠である。 ・職員会議等の場において、募集状況や中学校からの生の声の共有を続ける。	

分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） *文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） *文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
保健環境部 (保健・人権等)	○日常の教育活動、人権LHRを通して、互いを思いやり理解しあえる学級集団づくり等、人権教育を推進する。	○意図的なものでなくても、他者を傷つける言動を慎み、そのような場や差別事象に直面したら、見逃さずに注意し合う。	①日常の学校生活の中で、互いに不快や不安にさせない言動を取るように心がける。 ②HRや人権LHR、人権講演会を通して、問題意識を啓発し、ふさわしい行動が取れるようにする。		教職員に関しては、夏期休業中に公立学校と同様に「教職員人権感覚ブラッシュアップ研修」を全教職員が受講した。さらに「人権問題に関する三重県民意識調査」に基づく学習会を申し込み、夏期休業中に公益財団法人 反差別・人権研究所みえ 調査・研究員の原田朋記さんに「客観的データや具体的な事例から部落問題を考える」～差別を許さない人権が尊重される三重をつくるために～というテーマで教職員対象人権講演会を実施した。教職員の部落問題をはじめ様々な人権感覚が少しは高まったと思う。 生徒に関しては、例年通り、人権LHR・人権講演会を実施した。2学期末の段階では、3年生が1学期に「統一応募用紙に関する人権LHR」、2学期に「3年間を振り返って」のテーマで人権講演会および事後学習の人権LHRを実施した。		
	○基本的生活習慣の確立、心身ともに健康を維持増進するための習慣形成と体力づくりのため、積極的な保健指導を実施する。	①健康と安全に関する知識を養い、食生活を含めた基本的生活習慣の確立を目指す。 ②心身ともに健康を維持増進するための生活習慣形成と体力づくりに取り組む。	身体測定、各種検診、保健室来室カードや来室時の生徒対応等から、体格・体力・疾病・栄養状態の実態、健康・安全の認識度や健康生活の実践の実態、心の健康に関する実態、性に関する実態などの情報把握に努める。		身体測定、各種検診、保健室来室カードや来室時の生徒対応等から、体格・体力・疾病・栄養状態の実態、健康・安全の認識度や健康生活の実践の実態、心の健康に関する実態、性に関する実態などの情報把握に努めた。	朝食抜きが習慣化されている生徒や睡眠不足を感じている生徒が多くみられる。学校でも基本的生活習慣を含めた健康の自己管理についてさらに積極的な保健指導をしていかなければならない。	
	○自らの健康管理等について、生徒への啓発活動を随時実施する。（コロナ・インフル等の感染症対策）	①各健康診断、健康相談をもとに、生徒の状況を把握し、指導、支援を行う。 ②安全に安心して学校生活を過ごすための環境づくりをする。	保健室来室生徒への問診から、保健指導を行い自らの健康状態に関心を持つよう指導を行う。 感染症対策について保健室内で感染症の蔓延を防ぐ為、個室での隔離や、使用場所の消毒等に努める。		保健室来室生徒への問診から、保健指導を行い自らの健康状態に関心を持つよう指導を行った。 感染症対策について保健室内で感染症の蔓延を防ぐ為、個室での隔離や、使用場所の消毒等に努めた。	心身の健康に対して、親の理解のなさが子どもの生きづらさにつながっていることを感じる。 教員や保護者に対して保健室から常に情報発信していきたい。	
	○教育支援体制の見直しを検討する。	担任・コース主任との意思疎通に努め、長期欠席生徒を中心に、精神的に悩みを抱える生徒の早期発見・掌握と迅速なカウンセリング対応をカウンセラーや教育支援チーム、クラブ顧問と連携をとって実施する。また、必要に応じて外部の関係機関との連携を図る。	担任が行う教育的指導は、コース主任と連携して行う。また、担任とコース主任は必要な情報をカウンセラー・養護教諭から得て、その指導に当たる。カウンセリングはカウンセラーや養護教諭が担当する。教育相談の主な内容は、進路変更後の進路先紹介や斡旋を中心に行うが、場合によっては休学・退学を勧めることもある。個々の特別な支援が必要な生徒への対応についての事例を共有する。また、ケース会議での相談を有効に活用してもらい、生徒・保護者との関わり方に役立てられるようにしたい。		欠席多数により支援会議で情報共有した生徒はのべ80人を超えた。遅刻や早退が突出して多いなど潜在している生徒もいることを考えると、すべてが把握できているとは言い難いかもしれない。幸い各コース主任が担任や学年と密に連携を図ってくれていることで、それらの生徒も見逃されずに指導できている。今後も支援会議でこまめに情報共有していきたい。	教室に入りづらい、朝起きられない等の身体的精神的な理由がはっきりしている場合もあれば、はっきりした原因がわからないままに欠席が長引いている生徒もある。今後支援センターが設置される予定のようだが、具体的にどのような支援ができるのか、運用方法についての課題は多いと感じている。	

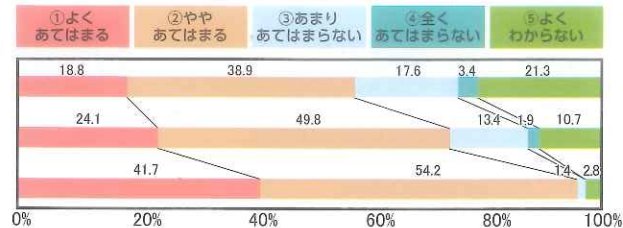
分掌名 (業務内容)	期首（R7年4月） ＊文字数制限なし			期末（R7年12月末時点） ＊文字数制限なし			
	R7 基本方針	R7 目標	R7の目標達成に向けた 取り組み、計画等	自己評価(振り返り)		課題・改善策	その他 (あれば)
					評価内容		
総務部 (総務・庶務等)	○入試広報部や各コースと連携し、オープンスクールの見直しを行う。（会場、内容、時間設定等）	参加する中学生と保護者に、本校の魅力が十分に伝わる内容にする。参加者視点のプログラム設定にすることで、満足度を高める。	入試広報部をはじめ、多方面からの意見を取り入れ、内容を精査する。プログラムの流れや時間配分を調整し、計画時間内に終了するよう円滑な運営を心掛ける。		昨年度の反省を受け、本年度は会場・内容・時間設定の大きな変更を行った。入試広報部・各コース・分掌間と連携を密にすることで、大きな混乱や事故もなく、ほぼ時間設定どおりに進行し、円滑に行事を実施することができた。事後アンケート結果からも、参加者には本校の活気ある雰囲気など、良さを感じていただいたことや概ね満足していただいたことが確認された。生徒会及び多くのクラブ顧問の指導のもと、在校生が主体的に運営に携わった点も参加者からの高評価につながった。	校内見学および部活動見学においては、案内表示や誘導、直前変更の周知が不十分であった点が課題として挙げられる。校内見学の誘導と動線の整理、案内マップや案内表示の改善が必要である。また、部活動見学については、当日の活動状況・活動場所・実施有無についての事前案内と当日の表示をより明確にする必要がある。さらに、見学できない部活動への対応方法についても、次年度の開催に向けての検討事項である。	雨天時に備えて駐車場の増設・整備が必要。
	○保護者目線のPTA総会の開催方法を再検討する。	PTA役員・常任委員の保護者だけでなく、一般PTA会員の保護者にも多数参加していただける総会を実現する。	授業参観ならびにコース・学年・担任主導による懇談会、進路指導部主導による進路行事や講演会を開催することにより、参加しやすい環境をつくる。		授業参観・各コース学年及び進路指導部主導による進路講演会を開催した。授業参観424名、懇談会及び講演会448名、常任委員会・総会204名と、多数の保護者に参加していただくことができた。講演会の開催数が多かったため場所が確保できず、4年生のみ講演会と授業参観の時間を入れ替えることとなった。	各コース・学年・分掌での講演会・会場設定等に関する事前調整が早い時期に必要である。駐車誘導については天候に左右されやすく、場所も不足していることから担当教員の負担が大きいが課題であり、負担軽減策の検討が必要である。	雨天時に備えて駐車場の増設・整備が必要。
	○入学式・卒業式等、各行事の円滑な運営、校内外と連携を密にしながら業務の明確化と効率化を図る。	式典および各行事が円滑に実施できるよう努める。	早期に詳細な計画をたて、各行事に必要な役割を明確にし、適所に担当者を配置する。時間配分に注意し、行事後の日程に支障がでないように配慮する。		入学式・卒業式等の各行事が円滑に実施できるよう早期に詳細な計画を立案し、必要な役割を整理したうえで担当者を配置するなど、準備段階から業務の明確化を図った。教職員や関係業者との情報共有や連携を密にすることで、当日の運営が円滑に進むよう調整に努めた。進行や時間配分にも配慮し、行事後の日程に支障が生じないよう調整を行った。また、式典では先生方の協力を得て、ストーリーミング配信を実施することで、保護者の満足に繋がった。	ストーリーミング配信については、現在対応可能な職員が限られており、業務が集中してしまうことが課題である。今後は操作手順の整理・共有・研修等により対応できる職員を増やし、業務の分散化と安定した行事運営を図っていきたい。	雨天時に備えて駐車場の増設・整備が必要。
	○入学試験・合格者説明会について、校内外と連携を密にしながら業務の明確化と効率化を図る。	受験生や入学予定者が、安心して参加できる環境を作る。	中学生が参加することを念頭に、早期に綿密な計画を立て、校内外の関係者と連携を密にし、適所に担当者を配置する。 問題発生の予防と不慮の事態への迅速な対応のため、危機管理についても十分考慮する。		入試広報部や教務部をはじめとした校内の他部署および校外の関係者と情報共有を行い、その都度連携を図りながら入学試験・合格者説明会に関する業務を進めた。中学生が参加する行事であることを踏まえ、早期に計画を立案し、業務内容や役割分担を明確にした上で担当者を配置するなど、円滑な運営に努めた。また、受験生や入学予定者が安心して参加できる環境づくりを意識し、案内や動線の確認、綿密な準備を行うことで、大きな問題なく実施することができた。	入試当日、体調不良者や特別受験に切り替えた受験生が複数出たことから、次年度からは各教室からの入試本部への報告様式は「空席報告」に統一し、保健室と本部間の連絡体制も一本化したい。また、各クラスからの手伝い生徒については、報告後の変更が数多くあり、名簿管理や配置調整等、対応に手間を要した。業務量に応じた人員配置の最適化に加え、昼食やお礼の見直しを行い、生徒の協力体制の強化につなげていきたい。	雨天時に備えて駐車場の増設・整備が必要。

保護者 学校の授業に関して不満はない。

生徒 授業内容や教え方を工夫をしている先生が多い。

教職員 教材や教え方にさまざまな工夫をしている。

①	②	③	④	⑤
18.8	38.9	17.6	3.4	21.3
24.1	49.8	13.4	1.9	10.7
41.7	54.2	1.4	0.0	2.8



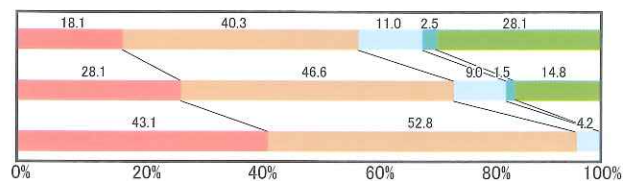
進路指導について

保護者 子ども一人一人に必要な進路情報が適切に提供されている。

生徒 進路に関する情報は必要な時にいつでも知ることができる。

教職員 進路に関する情報は適宜提供している。

①	②	③	④	⑤
18.1	40.3	11.0	2.5	28.1
28.1	46.6	9.0	1.5	14.8
43.1	52.8	4.2	0.0	0.0

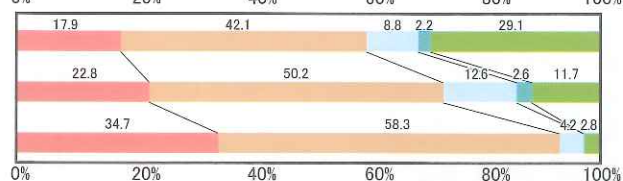


保護者 学年、コース、クラスで進路指導が十分なされている。

生徒 学年で行われている進路指導の行事等はよくわかり十分役に立っている。

教職員 学年、コース、クラスで進路指導は生徒に役立っている。

①	②	③	④	⑤
17.9	42.1	8.8	2.2	29.1
22.8	50.2	12.6	2.6	11.7
34.7	58.3	4.2	0.0	2.8

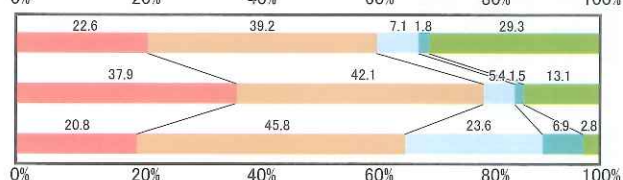


保護者 担任は子どもの将来の希望にそった進路指導をしてくれている。

生徒 担任は生徒の進路指導にそった指導をしてくれる。

教職員 生徒は進路に関して質問をよくしにくる。

①	②	③	④	⑤
22.6	39.2	7.1	1.8	29.3
37.9	42.1	5.4	1.5	13.1
20.8	45.8	23.6	6.9	2.8



保護者 子どもの進路先について親として相談にのっている。

生徒 進路に対応した授業、補習など日々なされている。

教職員 進路に対応した授業（補習）をしている。

①	②	③	④	⑤
34.4	52.2	8.0	1.2	4.2
31.1	43.6	9.4	1.6	14.2
30.6	54.2	12.5	0.0	2.8



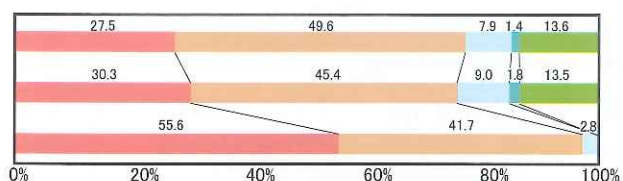
生徒指導について

保護者 先生方が基本的な生活習慣を身につけさせようと努力していることがよくわかる。

生徒 基本的な生活習慣を身につけさせようと努力している教職員が多い。

教職員 基本的な生活習慣を身につけさせようと努力している。

①	②	③	④	⑤
27.5	49.6	7.9	1.4	13.6
30.3	45.4	9.0	1.8	13.5
55.6	41.7	2.8	0.0	0.0

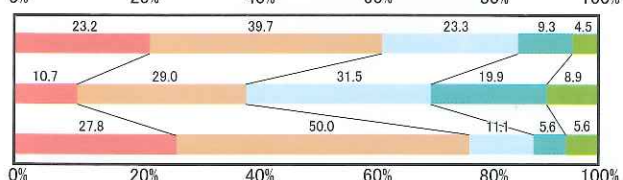


保護者 服装・頭髪などに関する指導は厳しいので良いと思う。

生徒 服装・頭髪などの指導が厳しいので良いと思う。

教職員 服装・頭髪に関しての本校の指導は適切である。

①	②	③	④	⑤
23.2	39.7	23.3	9.3	4.5
10.7	29.0	31.5	19.9	8.9
27.8	50.0	11.1	5.6	5.6

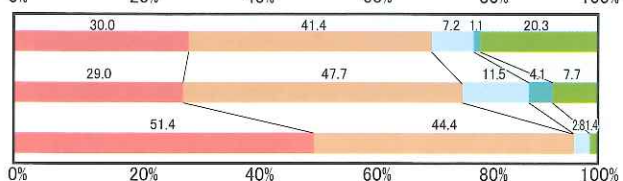


保護者 先生が挨拶や時間を守ることに力を入れていることがよくわかる。

生徒 基本的な生活習慣が守れるように生活指導に力を入れていることは良いと思う。

教職員 挨拶や時間を守れるように、日々、指導している。

①	②	③	④	⑤
30.0	41.4	7.2	1.1	20.3
29.0	47.7	11.5	4.1	7.7
51.4	44.4	2.8	0.0	1.4



保護者 学校外で子どもは校則やきまりをよく守っている。

生徒 校外において、三重高校生は校則やきまりをよく守っていると思う。

教職員 三重高校生は校則やきまりをよく守っている。

①	②	③	④	⑤
35.0	50.3	4.1	0.7	9.9
24.7	40.3	18.0	5.8	11.3
13.9	61.1	19.4	5.6	0.0



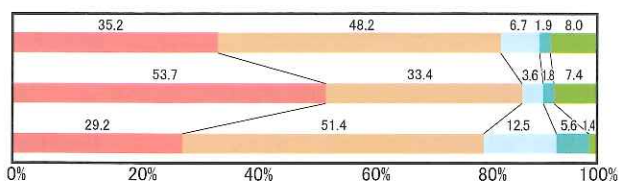
行事・特別活動について

保護者 学校行事は充実していると思う。

生徒 本校の学校行事は楽しい。

教職員 本校の学校行事の内容は、今のままでよい。

①	②	③	④	⑤
35.2	48.2	6.7	1.9	8.0
53.7	33.4	3.6	1.8	7.4
29.2	51.4	12.5	5.6	1.4



学校評価アンケート集計結果

学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。提出していただいたアンケートの集約結果を割合(%)とグラフで報告させていただきます。

	保護者	生徒	教職員
全体数	1534	1534	89
回答数	1049	880	72
回収率	68%	57%	81%

①よくあてはまる ②ややあてはまる
③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
⑤よくわからない

生徒対象アンケートでの質問項目に合わせ結果を表示しました。保護者、教員については、生徒質問項目に対応できるように、少し入れ替えがしてあります。本年度から、広報活動と人権教育についての調査項目を増やしました。ITC教育環境については、生徒・教員の結果を表示しました。最後の、その他については、保護者のみの結果です。この集計結果をもとに、各コース、各分掌で分析を行い、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

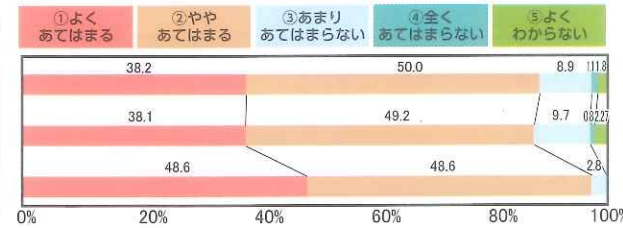
教育方針等について

保護者 本校の校訓「真剣味」という言葉の意味を知っている。

生徒 本校の校訓「真剣味」という言葉の意味を知っている。

教職員 本校の校訓「真剣味」という言葉を意識して生徒を指導している。

①	②	③	④	⑤
38.2	50.0	8.9	1.1	1.8
38.1	49.2	9.7	0.8	2.27
48.6	48.6	2.8	0.0	0.0

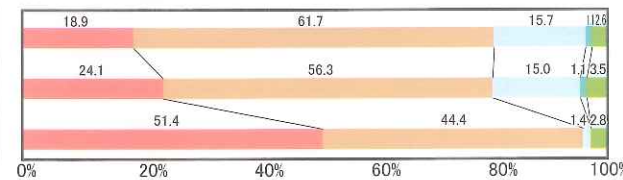


保護者 本校の教育目標や教育方針の内容を知っている。

生徒 本校の教育目標や教育方針の内容を知っている。

教職員 本校の教育目標や教育方針を意識して生徒を指導している。

①	②	③	④	⑤
18.9	61.7	15.7	1.1	2.6
24.1	56.3	15.0	1.1	3.5
51.4	44.4	1.4	0.0	2.8



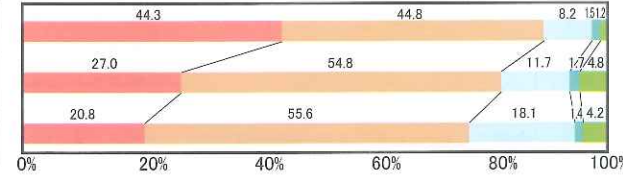
学校全般

保護者 子どもは、学校に楽しく行っている。

生徒 学校の雰囲気は良い。

教職員 生徒にとって本校は恵まれた教育環境であると思う。

①	②	③	④	⑤
44.3	44.8	8.2	1.5	1.2
27.0	54.8	11.7	1.7	4.8
20.8	55.6	18.1	1.4	4.2

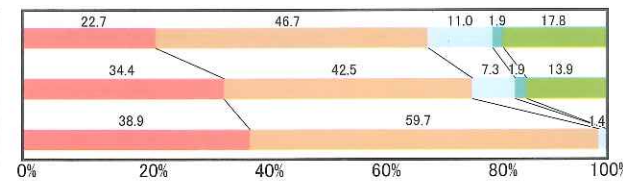


保護者 子どもの悩みや相談に親切に対応してくれている。

生徒 先生は悩みや相談に親切に対応してくれる。

教職員 生徒の悩みや相談に親切に対応している。

①	②	③	④	⑤
22.7	46.7	11.0	1.9	17.8
34.4	42.5	7.3	1.9	13.9
38.9	59.7	1.4	0.0	0.0

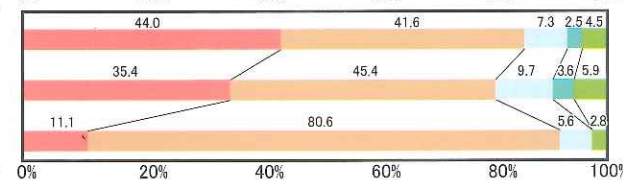


保護者 子どもは三重高校に入学してよかったと思っている。

生徒 自分は本校に入学してよかったと思っている。

教職員 生徒は本校に入学して満足している。

①	②	③	④	⑤
44.0	41.6	7.3	2.5	4.5
35.4	45.4	9.7	3.6	5.9
11.1	80.6	5.6	0.0	2.8



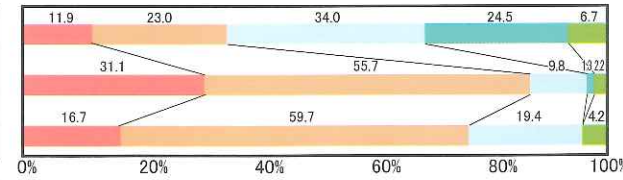
授業について

保護者 家庭において2時間以上、子どもは勉強している。

生徒 自分は意欲的に授業を受けている。

教職員 意欲的に授業を受けている生徒が多い。

①	②	③	④	⑤
11.9	23.0	34.0	24.5	6.7
31.1	55.7	9.8	1.3	2.2
16.7	59.7	19.4	0.0	4.2

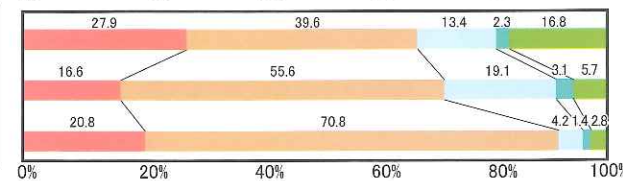


保護者 学校は、補習など授業以外の学習指導をよくしてくれている。

生徒 授業の進め方が適切で満足している教科が多い。

教職員 生徒の能力に応じた授業をしている。

①	②	③	④	⑤
27.9	39.6	13.4	2.3	16.8
16.6	55.6	19.1	3.1	5.7
20.8	70.8	4.2	1.4	2.8



保護者 進路に対して不安なので塾に通わせなければと考えている。(すでに通わせている。)

生徒 授業だけで十分進学に対応できる。

教職員 本校の授業だけで、中堅の大学への進学は可能である。

①	②	③	④	⑤
20.5	24.7	29.7	17.9	7.1
13.3	39.4	28.1	7.7	11.5
25.0	41.7	18.1	9.7	5.6

